

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年6月16日

【事業年度】 第94期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

【会社名】 リケンテクノス株式会社

【英訳名】 RIKEN TECHNOS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 常盤 和明

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地

【電話番号】 東京 03(5297)1650(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高見 亮一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地

【電話番号】 東京 03(5297)1650(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高見 亮一

【縦覧に供する場所】 リケンテクノス株式会社大阪支店
(大阪市北区堂島一丁目5番30号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第90期	第91期	第92期	第93期	第94期
決算年月		2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高	(千円)	97,813,960	98,808,671	88,224,442	109,923,705	123,497,991
経常利益	(千円)	5,869,515	5,670,415	5,652,088	6,889,026	7,964,903
親会社株主に帰属する 当期純利益	(千円)	3,060,922	3,064,349	3,234,206	3,941,418	4,557,523
包括利益	(千円)	3,198,839	4,282,833	5,364,088	6,457,319	8,932,409
純資産額	(千円)	56,478,468	57,586,816	61,076,854	65,448,500	72,165,232
総資産額	(千円)	95,207,902	91,868,881	95,208,860	102,641,484	112,002,757
1株当たり純資産額	(円)	753.31	788.77	852.51	914.83	999.00
1株当たり当期純利益	(円)	47.43	48.11	51.22	62.47	72.11
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益	(円)	45.93	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	51.4	54.1	56.4	56.3	56.4
自己資本利益率	(%)	6.4	6.2	6.3	7.1	7.5
株価収益率	(倍)	9.6	8.0	10.1	7.3	8.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	7,317,707	8,805,427	9,387,855	4,572,806	8,524,122
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	3,232,951	2,525,296	3,002,966	2,438,208	3,955,106
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,562,401	5,480,159	2,796,299	2,946,018	2,335,319
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	17,036,114	17,812,026	21,080,770	20,677,303	23,454,955
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	(人)	1,882 〔 - 〕	1,944 〔 - 〕	1,894 〔 - 〕	1,884 〔 - 〕	1,895 〔 - 〕

- (注) 1 第91期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 当社は株式報酬制度「株式給付信託(B B T = Board Benefit Trust)」及び従業員株式所有制度「株式給付信託(従業員持株会処分型)」を導入しております。当制度の導入に伴い、1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数は、日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式の数を控除しております。
- 3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第93期の期首から適用しており、第93期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第90期	第91期	第92期	第93期	第94期
決算年月		2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高	(千円)	42,769,612	41,655,842	35,516,978	43,578,893	57,080,217
経常利益	(千円)	3,614,245	3,687,066	3,188,230	4,260,095	5,332,727
当期純利益	(千円)	3,054,554	1,778,265	2,652,476	3,615,098	4,232,310
資本金	(千円)	8,514,018	8,514,018	8,514,018	8,514,018	8,514,018
発行済株式総数	(株)	66,113,819	66,113,819	64,113,819	64,113,819	64,113,819
純資産額	(千円)	45,051,178	44,438,356	48,140,602	50,805,243	54,469,375
総資産額	(千円)	63,113,838	60,533,809	65,739,577	71,698,669	76,493,960
1株当たり純資産額	(円)	693.42	705.12	763.66	804.64	861.05
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円)	14.00 (6.00)	16.00 (8.00)	16.00 (4.00)	19.00 (8.00)	25.00 (9.00)
1株当たり当期純利益	(円)	47.33	27.92	42.01	57.30	66.96
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益	(円)	45.84	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	71.4	73.4	73.2	70.9	71.2
自己資本利益率	(%)	6.9	4.0	5.7	7.3	8.0
株価収益率	(倍)	9.6	13.8	12.3	8.0	8.8
配当性向	(%)	29.6	57.3	38.1	33.2	37.3
従業員数 〔外、平均臨時雇用者数〕	(人)	668 〔 - 〕	731 〔 - 〕	737 〔 - 〕	779 〔 - 〕	780 〔 - 〕
株主総利回り (比較指標：TOPIX)	(%) (%)	92.1 (92.7)	81.9 (81.7)	110.8 (113.9)	103.0 (113.4)	133.9 (116.7)
最高株価	(円)	624	557	576	633	636
最低株価	(円)	403	311	346	406	409

- (注) 1 第91期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 当社は株式報酬制度「株式給付信託(BBT=Board Benefit Trust)」及び従業員株式所有制度「株式給付信託(従業員持株会処分型)」を導入しております。当制度の導入に伴い、1株当たり当期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数は、日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式の数を控除しております。
- 3 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第一部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所プライム市場におけるものです。
- 4 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第93期の期首から適用しており、第93期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 5 第93期の1株当たり配当額19円には、創立70周年記念配当1円を含んでおります。

2 【沿革】

年月	概況
1949年11月	東京工業大学において、塩化ビニル配合技術の基礎研究に着手、工業化の調査を開始
1951年3月	資本金200万円をもって当社を設立
6月	東京都大田区羽田にて、塩化ビニルコンパウンド製造を開始
1955年10月	東京都大田区蒲田にて工場を取得し、コンパウンド設備を移設・拡充
1956年12月	蒲田工場にカレンダーフィルム、押出フィルムの製造設備完成
1961年10月	東京証券取引所市場第2部に上場
1968年12月	岡部工場に押出フィルムの設備完成操業開始
1969年11月	岡部工場に塩化ビニルコンパウンド及びカレンダーフィルム製造設備を新設
1970年6月	名古屋証券取引所市場第2部に上場
1973年4月	大阪営業所開設(1982年4月 大阪支店に改組)
12月	三重工場にコンパウンドの設備完成操業開始
1974年6月	東京・名古屋両証券取引所市場第1部に上場
1977年11月	進興電線株式会社株式(現・連結子会社リケンケーブルテクノロジー株式会社)を取得
1979年10月	名古屋営業所開設
1980年3月	福岡営業所開設(2007年12月 閉所)
4月	岡部工場にカレンダーフィルム3次加工製造設備を新設
6月	三重工場に押出フィルム製造設備を新設
1984年4月	材料開発研究所、フィルム開発研究所設立
1987年3月	三重工場にファインコンパウンド製造設備を新設
1989年4月	タイ国に合弁会社、RIKEN(THAILAND)CO.,LTD.(現・連結子会社)を設立
1990年2月	米国に合弁会社、RIMTEC CORPORATION(現・連結子会社)を設立
12月	三重工場にカレンダーフィルム製造設備を新設
1994年6月	岡部工場にカレンダーフィルム3次加工製造設備を増設
1995年4月	インドネシア国に合弁会社、PT.RIKEN ASAHI PLASTICS INDONESIA(現・連結子会社PT.RIKEN INDONESIA)を設立
5月	米国にRIKEN U.S.A.CORPORATION(現・連結子会社)を設立
10月	蒲田工場の生産部門を岡部工場・三重工場へ集約
2001年8月	中国に合弁会社、上海理研塑料有限公司(現・連結子会社)を設立
10月	理研ビニル工業株式会社から、リケンテクノス株式会社へ社名変更
2003年5月	名古屋証券取引所市場第1部上場を廃止
8月	中国に合弁会社、理研食品包装(江蘇)有限公司(現・連結子会社)を設立
2005年10月	群馬工場にフィルム設備完成操業開始
2006年1月	岡部工場より埼玉工場に名称変更
3月	株式会社協栄樹脂製作所株式(現・連結子会社)を取得
4月	材料開発研究所より材料開発センターに、フィルム開発研究所よりフィルム開発センターに名称変更
6月	米国に合弁会社、RIKEN ELASTOMERS CORPORATION(現・連結子会社)を設立
8月	カネコン商事株式会社株式(現・連結子会社リケンテクノスインターナショナル株式会社)を取得
2007年5月	エムアイ化成株式会社株式(現・連結子会社リケンケミカルプロダクツ株式会社)を取得
2009年4月	材料開発センター及びフィルム開発センターを統合し、研究開発センター(東京)・(埼玉)に名称変更
2010年4月	PT.RIKEN ASAHI PLASTICS INDONESIAの社名をPT.RIKEN INDONESIAに変更
9月	研究開発センター(東京)を新研究棟として隣接地に移転

年月	概況
2011年 7月	タイ国にRIKEN ELASTOMERS (THAILAND) CO.,LTD.(現・連結子会社)を設立
2012年10月	三井化学ファブロ株式会社の全株式を取得し、同時にリケンファブロ株式会社に社名変更
2013年 3月	エムアイ化成株式会社の社名をリケンケミカルプロダクツ株式会社に変更
7月	韓国にRIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION(現・連結子会社)を設立
2014年 7月	カネコン商事株式会社の社名をリケンテクノスインターナショナル株式会社に変更
11月	ベトナム国にRIKEN VIETNAM CO.,LTD.(現・連結子会社)を設立
2015年 9月	本社を東京都千代田区に移転
2017年 4月	米国子会社をRIKEN AMERICAS CORPORATION、RIMTEC CORPORATION、RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONの3社に再編
2018年 4月	進興電線株式会社の社名をリケンケーブルテクノロジー株式会社に変更
2018年10月	株式会社アイエムアイ(現・連結子会社)の株式を取得
2019年 1月	インド国にRIKEN TECHNOS INDIA PVT. LTD.(現・連結子会社)を設立
2022年 1月	リケンファブロ株式会社を吸収合併
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行

(注)2023年 4月 1 日付で当社は、リケンテクノスインターナショナル株式会社を吸収合併しております。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社17社で構成されており、4つの市場別セグメントにおいて、コンパウンド、フィルム、食品包材の製造・販売等を行う合成樹脂加工等の事業を行っております。

セグメント名 [市場]	事業戦略	主要製品
トランスポーターション Transportation (TR) [自動車、鉄道、船舶市場等]	アジア・北米市場で圧倒的な存在感の確立 主に自動車分野の機能部品の販売強化	コンパウンド フィルム
デイリーライフ&ヘルスケア Daily Life & Healthcare (DH) [医療、生活資材、食品包材市場等]	医療・ヘルスケアおよび生活資材分野での高付加価値製品の拡充 新分野への挑戦	コンパウンド フィルム 食品包材
エレクトロニクス Electronics (EL) [エネルギー、情報通信、IT機器市場等]	電線分野での快適な暮らしを支える情報インフラへの貢献 光学分野での未来を創造するオンリーワン製品の開発	コンパウンド フィルム
ビルディング&コンストラクション Building & Construction (BC) [住宅、ビル、建築資材、土木市場等]	建装材分野での機能的で環境に優しく美しい空間部材の提供	コンパウンド フィルム

(注) ()はセグメントの略称であります。

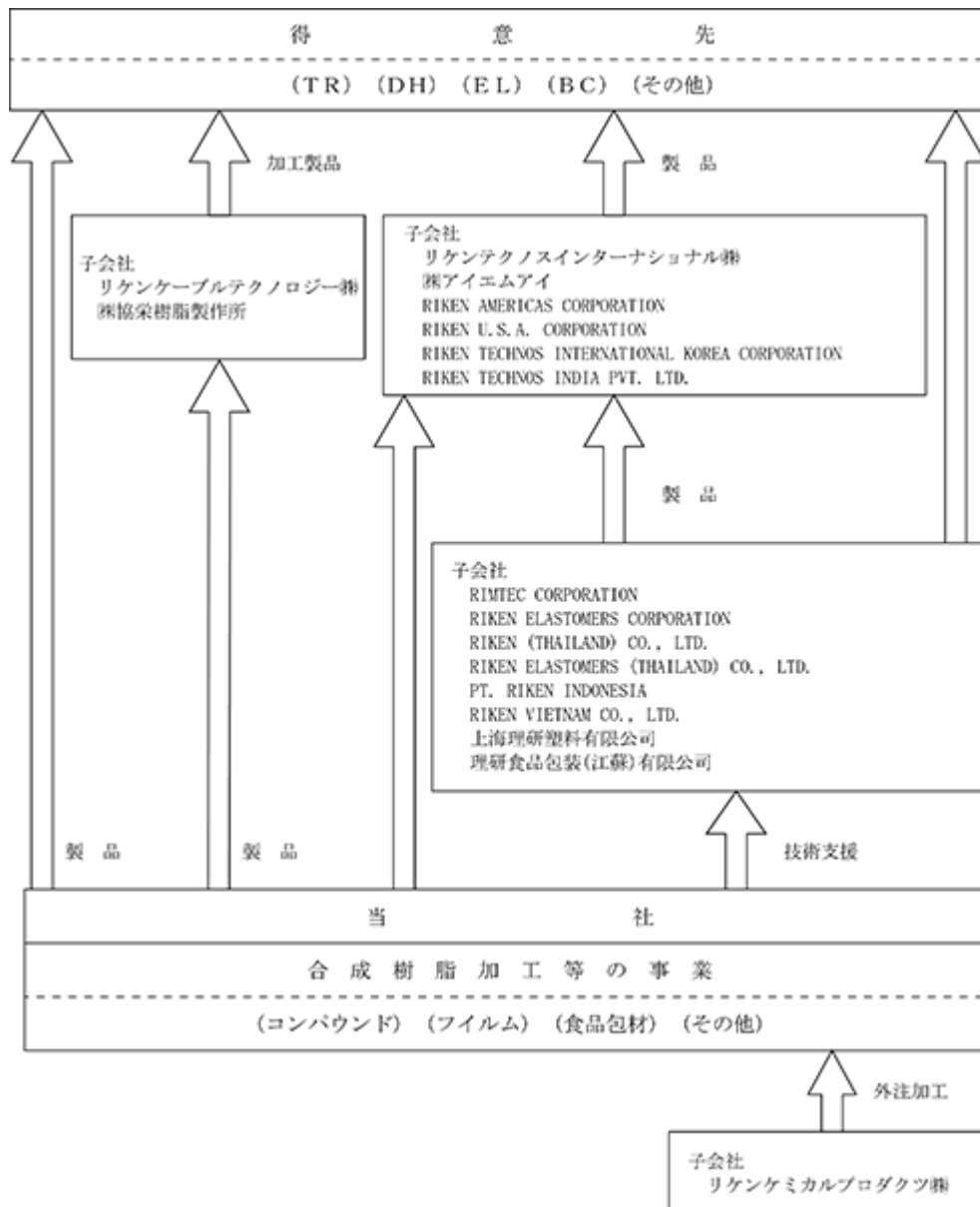
当社及び連結子会社の事業における当社及び連結子会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

コンパウンド.....当社が製造・販売するほかに、海外の拠点である、RIKEN AMERICAS CORPORATION、RIMTEC CORPORATION、RIKEN ELASTOMERS CORPORATION、RIKEN(THAILAND)CO.,LTD.、RIKEN ELASTOMERS(THAILAND)CO.,LTD.、PT.RIKEN INDONESIA、RIKEN VIETNAM CO.,LTD.及び上海理研塑料有限公司において製造・販売しております。リケンテクノスインターナショナル(株)には当社製品の販売を委託しております。リケンケミカルプロダクツ(株)は当社の外注加工先としてコンパウンドの製造を行っております。

フィルム.....当社が製造・販売するほかに、一部当社製品の販売をRIKEN U.S.A.CORPORATION、RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION及びリケンテクノスインターナショナル(株)に委託しております。

食品包材.....当社が製造・販売するほかに、海外の拠点として、理研食品包装(江蘇)有限公司が製造・販売しております。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

2023年3月31日現在

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) リケンケーブルテクノロジー 株式会社	埼玉県 入間市	48,000	EL	100.00	一部当社の製品を電線に加工製造して販売しております。 役員の兼任等...有
株式会社協栄樹脂製作所	福島県 西白河郡	24,000	TR DH EL BC	100.00	一部当社の製品を成型品に加工製造して販売しております。 役員の兼任等...有
リケンテクノス インターナショナル株式会社 (注)10	東京都 千代田区	10,000	TR DH EL BC その他	100.00	一部当社の製品販売を受託しております。 役員の兼任等...有
リケンケミカルプロダクツ 株式会社	滋賀県 湖南市	300,000	TR DH EL BC	100.00	一部当社が製造・販売している製品を製造しております。 役員の兼任等...有
株式会社アイエムアイ (注)9	東京都 千代田区	30,000	BC	89.23	一部当社が製造・販売している製品のデザインサービス・販売しております。 役員の兼任等...有
RIKEN(THAILAND)CO.,LTD. (注)2、7	タイ王国 パトムタニ県	120,000 千タイバーツ	TR DH EL BC その他	40.00	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 役員の兼任等...有
RIKEN ELASTOMERS(THAILAND) CO.,LTD.	タイ王国 アユタヤ県	300,000 千タイバーツ	TR DH BC	100.00	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...有
PT. RIKEN INDONESIA	インドネシア共和国 ウエストジャワ州	11,000 千USドル	TR DH EL BC	56.22	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 役員の兼任等...有
上海理研塑料有限公司	中華人民共和国 上海市	7,500 千USドル	TR DH EL その他	70.00	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...有
理研食品包装 (江蘇)有限公司 (注)3	中華人民共和国 江蘇省	13,500 千USドル	DH	92.59	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...有
RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION	大韓民国 牙山市	1,800,000 千韓国ウォン	TR EL BC	100.00	一部当社の製品販売を受託しております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...無

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
RIKEN VIETNAM CO.,LTD. (注) 3	ベトナム 社会主義共和国 ビンスオン省	20,000 千USドル	TR DH EL BC その他	100.00	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...無
RIKEN TECHNOS INDIA PVT. LTD.	インド ハリヤーナー州	20,000 千インドルピー	TR DH BC	100.00 (1.00)	当社が製造・販売している製品の取次業務をしております。 役員の兼任等...無
RIKEN U.S.A. CORPORATION	アメリカ合衆国 ミシガン州	1,000 千USドル	EL BC	100.00	一部当社の製品販売を受託しております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...無
RIKEN AMERICAS CORPORATION (注) 3、7	アメリカ合衆国 ケンタッキー州	30,000 千USドル	TR EL BC	62.94	一部当社が販売している製品を販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...有
RIMTEC CORPORATION (注) 3、5	アメリカ合衆国 ニュージャージー州	13,415 千USドル	TR DH EL BC	62.94 (62.94)	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 役員の兼任等...有
RIKEN ELASTOMERS CORPORATION (注) 6	アメリカ合衆国 ケンタッキー州	28,741 千USドル	TR DH EL BC	62.94 (62.94)	一部当社が製造・販売している製品を製造・販売しております。 技術等のライセンス契約の締結をしております。 当社より債務保証を受けております。 役員の兼任等...有

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの略称を記載しております。
2 持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため子会社としております。
3 特定子会社に該当しております。
4 「議決権の所有割合」欄の()内の数字は間接所有であります。
5 RIMTEC CORPORATIONは、会社登録上、RIMTEC MANUFACTURING CORPORATIONであります。
6 RIKEN ELASTOMERS CORPORATIONの資本金は、資本準備金を含んでおります。
7 RIKEN AMERICAS CORPORATION、RIKEN (THAILAND) CO.,LTD.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。
- 主要な損益情報等

単位：百万円

	RIKEN AMERICAS CORPORATION	RIKEN(THAILAND)CO.,LTD.
(1) 売上高	19,607	17,753
(2) 経常利益	976	1,603
(3) 当期純利益	630	1,283
(4) 純資産額	6,655	5,424
(5) 総資産額	9,276	10,304

- 8 2022年11月8日付で、理元(上海)貿易有限公司は清算終了いたしました。
9 2022年12月19日付で、株式会社アイエムアイは本社所在地を移転いたしました。
10 2023年4月1日付で当社は、連結子会社(所有割合100.00%)であるリケンテクノスインターナショナル株式会社を吸収合併しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
トランスポーターション	500
デイリーライフ&ヘルスケア	399
エレクトロニクス	347
ビルディング&コンストラクション	334
報告セグメント計	1,580
その他	-
全社(共通)	315
合計	1,895

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
 2 臨時従業員数の総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
 3 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2023年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
780	42.9	17.4	6,751,462

セグメントの名称	従業員数(人)
トランスポーターション	126
デイリーライフ&ヘルスケア	162
エレクトロニクス	188
ビルディング&コンストラクション	199
報告セグメント計	675
その他	-
全社(共通)	105
合計	780

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。
 2 臨時従業員数の総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 4 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

(提出会社)

名称 リケンテクノス労働組合
 結成 1959年4月
 組合員数 596人 (2023年3月31日現在)

外部団体に加盟していない単独組合であり、労使間の重要な問題はすべて団体交渉によって解決されております。

また、関係会社においても、労使間の重要な問題はすべて団体交渉によって解決されており、各社とも良好な関係を維持しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

	管理職に占める 女性労働者の割合 (注) 1	男性労働者の 育児休業取得率 (注) 2、3、4	労働者の男女の賃金の格差(注) 1、5		
			全労働者	うち正規雇用者	うちパート・ 有期労働者
提出会社	2.0%	43.8%	75.0%	76.9%	50.1%
連結グループ	17.9%	47.1%	-	-	-

(注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

3 任意での開示となります。

4 提出会社および連結子会社(国内)のみを対象としております。

5 連結グループの労働者の男女の賃金格差欄については、国ごとに雇用状況(賃金支払形態、雇用形態等)が異なり単純な比較が出来ないため、記載しておりません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

わが国経済は、アフターコロナ期へ移行する過程における一部の景気押し上げ効果もあり、緩やかに回復に向かうと見込んでおります。もっとも、世界的なインフレに対する欧米での金融引き締めや長期化するウクライナ情勢、海外経済の減速による輸出の弱含み、資源価格高騰に伴う物価高の影響等によっては停滞感が強まることも考えられ、依然として先行きは不透明な状況が続くと考えております。

当社グループの事業活動においては、電力料を中心とする製造コストや物流費等が前年以上に上昇する見込みです。

このような環境の中、当社グループは3カ年中期経営計画「Challenge Now for Change New 2024 変革への挑戦」を経営方針とし、すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指してまいります。2023年度はこの3カ年中期経営計画の2年目となりますが、掲げている4つの戦略、『グローバル経営の深化とシナジー』『顧客の期待の先を行く』『新規事業/新製品への挑戦』『環境/社会課題解決への貢献』のもと、グループ全社一体となって課題解決に向けて各種施策に取り組んでまいります。

「グローバル経営の深化とシナジー」においては、ASEANを重点地域とし、経営資源の重点投入により圧倒的なシェア獲得とトップシェア分野の拡大を目指します。また、各本部によるグローバル横串運営の更なる強化を行ってまいります。

「顧客の期待の先を行く」においては、お客様の要望に対して迅速にソリューションを提供する当社の強み/ビジネスモデルを、さらに強化・発展させてまいります。潜在的なお客様のニーズを先回りして予測し具現化していくための体制構築とともに、分析力・提案力を強化してまいります。また、ソリューション提供のスピードアップを実現するために研究開発設備の増強及びMI（マテリアルズインフォマティクス）の活用を行ってまいります。

「新規事業/新製品への挑戦」においては、チャレンジメーカーとしての基本理念に立ち返り、将来の収益の柱となりうる事業の構築に挑戦いたします。既存のコンパウンド技術とフィルム技術の融合を進めるとともに、昨年立ち上げた新規事業開発準備室において産学連携も含めて新規事業/新製品につながるテーマの探求を進めてまいります。

「環境/社会課題解決への貢献」においては、引き続き環境対応製品の開発・普及を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献いたします。当社グループは、サステナビリティをめぐる課題への対応が経営の重要課題の一つであると認識し、それらを経営に取り込むことにより、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上を目指してまいります。環境・化学物質に関する諸法規・諸規制を遵守するとともに、環境負荷軽減につながる製品開発と製造方法の改善に全力を挙げて取り組みます。また、サーキュラーエコノミーを目指し、グループ内で様々な施策を進めてまいります。

セグメント別には、「トランスポートーション」では、ワイヤーハーネス及び自動車用成形部材分野への取り組みを強化し、拡販活動を進めてまいります。

「デイリーライフ&ヘルスケア」では、医療用、ゴム代替及び環境素材分野においてグローバル視点で販売戦略を実行してまいります。

「エレクトロニクス」では、電力・産業用電線、情報通信及び光学フィルム分野への取り組みを強化し、拡販活動を進めてまいります。

「ビルディング&コンストラクション」では、住宅・非住宅市場向けインテリアフィルム及び住宅・建築資材分野への取り組みを強化するとともに、海外での拡販を進めてまいります。

コーポレート・ガバナンスにつきましては、経営理念「リケンテクノスウェイ」を実践するとともに、グループガバナンスをさらに強化し、グループ経営の透明性、公正性を確保してまいります。

また、株主・投資家の皆様との建設的な対話を進め、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

今後、ますますグローバルに競争が激化することが予想されますが、各本部及び国内外の連結子会社が連携して各課題に取り組み、3カ年中期経営計画の完遂に向け全社員が一丸となって邁進してまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

リケンテクノスグループ（以下、当社グループ）は、サステナビリティをめぐる課題への対応が経営の重要課題の

ひとつであると認識し、「環境/社会課題解決への貢献」を中期経営計画の重点戦略として掲げ、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業価値の向上を目指しています。

(1)ガバナンス

当社グループは、企業を取り巻く環境が大きく変化する状況であることを踏まえ、より一層ステークホルダーの皆様からの期待を企業活動に取り入れるべく、現場と経営層をつなぐ機能として、サステナビリティ委員会を設置しています。サステナビリティ委員会は社長執行役員を委員長とし、経営会議のメンバーである全執行役員によって構成され、社外取締役もオブザーバーとして参加しています。経営層が主導することにより、スピードを重視した経営の意思決定と施策の実施が可能となる組織体制を構築しています。

サステナビリティ委員会はサステナビリティに係わる様々な重要課題について審議し、その審議内容を経営会議に答申・報告します。また、経営会議における審議事項は、取締役会に定期的に報告されます。

2022年度はサステナビリティ委員会を7回開催し、取締役会において2回審議を行っています。

また、サステナビリティを含むグループにおけるリスクを一元的に管理する機能としてリスク・コンプライアンス委員会を設置しています。リスク・コンプライアンス委員会は社長執行役員を委員長とし、経営会議のメンバーである全執行役員によって構成され、社外取締役もオブザーバーとして参加しています。

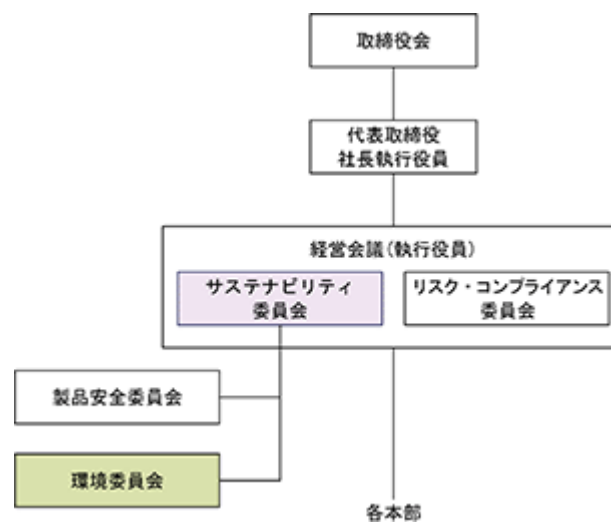
サステナビリティ委員会及びその下部組織である環境委員会は気候変動への対応を審議し、その審議内容を経営会議に答申・報告します。また、経営会議における気候関連の審議事項は、取締役会に定期的に報告されます。

2022年度は、サステナビリティ委員会において、主に TCFD提言に基づいた開示と重要課題（マテリアリティ）について審議を行いました。

TCFD提言に基づいた開示にあたっては、以下の内容について審議し、取締役会の決議を経て2022年6月に開示を行いました。

- ・気候関連のシナリオ分析
- ・短期・中期・長期の気候関連のリスク及び機会の特定と重要度評価
- ・特定された重要な気候関連のリスク及び機会に対する戦略的な取り組み方針
- ・気候関連のリスク及び機会への具体的な対応策の検討

長期ビジョンの実現に向けて、マテリアリティについて審議を行い、2023年3月の取締役会で決定をいたしました。



(2)戦略

当社グループでは、2023年3月取締役会において、下記項目をマテリアリティとして定め、そのうち特に当社グループが重要と捉える9項目についてKPIを設定し取り組みを推進します。



サステナビリティ委員会において、上記マテリアリティの進捗を管理しています。

[気候変動への対応(「持続可能な地球環境への貢献」)]

当社グループでは2100年における世界の気温上昇が2 あるいは4 という2つの世界観で、気候変動に伴う2030年及び2050年のシナリオ分析を実施しました。分析にあたっては、下表に示す政府機関及び研究機関で開示されているシナリオを参照しています。

世界観	分析に用いたシナリオ
2	Sustainable Development Scenario (SDS), IEA, 2020 Representative Concentration Pathways (RCP2.6), IPCC, 2014
4	Stated Policy Scenario (STEPS), IEA, 2020 Representative Concentration Pathways (RCP6.0, 8.5), IPCC, 2014

気候関連の問題及び問題への社会的な対応が、当社グループ及びそのサプライチェーン全体にどのような影響を及ぼしうるかについて、サステナビリティ委員会で審議し、気候関連のリスク及び機会を特定しています。

<リスク>

シナリオ分析の結果、炭素税の導入など気候変動対策を進める政策手段の導入や環境に配慮した製品への開発遅れや対応の遅れにより、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

リスクの種類		リスクの概要	財務影響		対応策
			2	4	
移行 リスク	政策及 び規制	炭素税の増加により、主要原材料やエネルギーの調達コストが上昇する	中	小	<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「環境 / 社会課題解決への貢献」の遂行 ・再生可能エネルギー由来の電力採用 ・重油から天然ガスへ転換 ・原材料のGHG排出原単位監視、低炭素型原材料への転換 ・生産設備のエネルギー効率の改善
移行 リスク	政策及 び規制	炭素税によって従来型原材料から低炭素型原材料への代替が発生し、原材料代替のための開発コストや調達コストが発生あるいは上昇する	大		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「新規事業 / 新製品への挑戦」「環境 / 社会課題解決への貢献」の遂行 ・原材料の統廃合(調達リスクが高い原材料の代替) ・使用原材料の低炭素型原材料への転換 ・複数購買化等
移行 リスク	技術	環境に配慮した製品の開発が遅れ、競合他社の低炭素型製品へ置き換わることで、当社製品・サービスへの需要が減少し、売上が減少する	中		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「新規事業 / 新製品への挑戦」「環境 / 社会課題解決への貢献」の遂行 ・環境配慮型製品 1 開発への経営資源の配分増加
移行 リスク	市場	石油化学由来原材料の価格が高騰し、原材料の調達コストが上昇する	中	大	<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「新規事業 / 新製品への挑戦」「環境 / 社会課題解決への貢献」の遂行 ・RIKEBIO®シリーズの開発・販売 ・バイオマス原料の積極採用、利用促進、転換拡大
移行 リスク	市場	当社顧客の石油由来原材料の使用量削減、脱石油由来原材料等への転換対応に遅れをとった場合、対応が遅れた製品・サービスの需要が減少し、売上が減少する	中		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「顧客の期待の先を行く」の遂行 ・顧客製品の高機能化(減容 / 小型化)に対応した製品開発 ・RIKEBIO®シリーズの開発・販売
移行 リスク	評判	環境対応の遅れにより投資家からの評価が低下し、株価が下落する	中		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「環境 / 社会課題解決への貢献」の遂行 ・環境対応の遅れや当社の評価が低下しないよう各委員会でのモニタリング実施 ・ステークホルダーへの環境配慮型製品 1 や環境対応状況の積極的な開示
物理的 リスク	急性	当社及びサプライチェーンが被災し、復旧までの間、事業活動の停止や縮小により売上が減少する、また復旧及び対策コストが増加する	中	中	<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「グローバル経営の深化とシナジー」の遂行 ・グローバルな製造・発注管理 ・グローバル拠点含めたBCP体制の強化と代替生産、供給体制の充実
物理的 リスク	慢性	降雨パターン・気象パターンの極端な変動による河川の氾濫、海面の上昇による高潮の発生増加により、海や河川の近隣にある当社建屋への対策コストが増加する	小	中	<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「環境 / 社会課題解決への貢献」の遂行 ・被災リスクの正当な評価と事前対策の実施

1 RIKEBIO®を含むサーキュラーエコノミー対応製品など。 RIKEBIO® = バイオマス原料を使用している製品

<機会>

シナリオ分析の結果、省エネ貢献商品の開発、低炭素型製品や機能付与した素材の提供などが、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

機会の種類	機会の概要	財務影響		対応策
		2	4	
エネルギー源	市場における省エネ貢献商品の開発、再生可能エネルギーの発電技術や機器の普及により、関連する当社製品の売上が増加する	小		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「顧客の期待の先を行く」「環境／社会課題解決への貢献」の遂行 ・顧客のニーズに合わせた気候変動に対応した製品 2の拡販
製品及びサービス	低炭素型製品の需要増加に伴い、機能付与した素材、石油由来成分の少ない製品(低炭素型製品)の開発・販売により、当社製品の需要及び売上が増加する	中		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「顧客の期待の先を行く」「環境／社会課題解決への貢献」の遂行 ・当社製品のリサイクル推進 ・環境配慮型製品 1の開発 ・RIKEBIO@シリーズの開発・販売
評判	気候変動対応への積極的な取り組みにより、ステークホルダーの信頼を獲得し、企業価値の向上につながる	中		<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「環境／社会課題解決への貢献」の遂行 ・当社環境対応に関する開示内容の充実
レジリエンス	当社拠点のグローバル展開により、自然災害が増加する環境下においても顧客へ製品を安定的に供給するレジリエンスが向上し、売上の減少を防ぐと共に顧客の信頼を獲得することで売上の増加につながる	小	小	<ul style="list-style-type: none"> ・中計戦略「グローバル経営の深化とシナジー」の遂行 ・当社グローバル拠点を活用した原材料調達力、BCP体制の更なる強化

1 RIKEBIO@を含むサーキュラーエコノミー対応製品など

RIKEBIO@ = バイオマス原料を使用している製品

2 材料の機能が省エネルギーに繋がる製品

[人材の育成及び社内環境整備に関する方針、戦略（チャレンジメーカーに相応しい人材の育成）]

当社グループの3ヵ年中期経営計画の4つの戦略のうち、3つの戦略の実行に必要な人材を確保・育成することが最重要と考え、各種施策に取り組んでいます。

中期経営計画の戦略	戦略実行に必要な人材
グローバル経営の深化とシナジー	グローバル事業戦略を遂行できる人材
顧客の期待の先を行く	分析能力・戦略視点を持った人材
新規事業／新製品への挑戦	多様な視点を持った人材

・人材育成方針

社員と会社はともに成長する関係にあり、「人の成長こそ企業の成長」です。

社員一人ひとりが「リケンテクノス ウェイ」を実践しながら会社の求める人材像に適った人材へと成長し、個の能力を組織の力として束ねて発揮させることにより、同時に会社も成長していくことを人材育成の方針とします。

会社は、社員一人ひとりが会社の「求める力」を発揮できる最適な仕事、環境の「場」を提供すると共に、グローバル競争に打ち克つ人材育成（投資）を積極的に行い、社員の「成長」と「活躍」を応援します。高められた個の能力を対話によって結集しチームで総合力を発揮することで、更なる会社の発展につなげていきます。

社内に不足する知識、見識、能力、キャリアがあっても育成だけでは補うことができない場合は、中途採用も交えてそれらを補完し、社内の活性化や当社の成長につなげていきます。

社員一人ひとりが経営理念である「リケンテクノス ウェイ」を自発的に実践していくことが全てにおいての基本であると考え、会社はそのための環境の整備に責任を負います。

・社内環境整備方針

グローバル企業を目指す当社として、多様な個性を持つ社員が活き活きと働くことができる体制の整備・雰囲気醸成を行うことを環境整備上の方針とします。

多様な人材がその個性を生かしながらのびのびとエネルギーに、持てる力を仕事に全力で投入できる仕組みや雰囲気をつくり、多様な働き方の実現をしていきます。

(3) リスク管理

リスク管理にあたっては、リケンテクノスウェイの実践、企業行動規範の遵守、経営の健全性確保、安定的な事業継続、人命優先、コンプライアンス精神の浸透並びにステークホルダーの利益阻害要素の除去・軽減を図る観点で行うことを基本方針としています。

2022年4月に設置したリスク・コンプライアンス委員会においてグループ全体のリスクの洗い出し/評価を行い、重点対策リスクとして特定した課題を中心にリスク対応策への取り組みを実施しています。

各部門に関する個別のリスク管理は各部門が行ない、リスク・コンプライアンス委員会は連結子会社を含むグループを取り巻くリスクを一元的・統括的に管理しています。

[気候変動への対応（「持続可能な地球環境への貢献」）]

気候変動関連リスクについては、サステナビリティ委員会及びリスク・コンプライアンス委員会を中心にリスクの回避、軽減、コントロールに関する方針の策定や対応策の立案などを実施し、取締役会での決議を経て、グループ全体を通じたリスクマネジメントを行っています。また、対応策の実施状況及びその効果についてモニタリングを実施しています。

(4)指標及び目標

マテリアリティ及びKPI

マテリアリティ名称	評価の基準 (KPI)	中長期目標	
		2024年度	2030年度
持続可能な地球環境への貢献	・2030年排出量削減目標値の達成(単体)	35,446t	24,139t (2019年度比46.2%減)
	・2050年カーボンニュートラル(グループ)		
	・総廃棄物量の総生産量比(単体)	3.3%以下	3.0%以下
健康経営・労働安全衛生の推進	・休業労災発生件数(国内)	0件	0件
	・特定検診実施率(国内)	90%	90%
	・特定保健指導実施率(国内)	55%	60%
チャレンジメーカーに相応しい人材の育成	・一人当たりの育成費用(単体)	117千円	140千円
品質向上と製品安全の確保	・市場回収を伴う重大品質事故(単体)	0件	0件
	・化学物質の使用に関する法令遵守・重大法令違反(単体)	0件	0件
新規事業・新製品の創出	・特許出願件数(単体)	(累計) 45件 (2022~2024年度)	(累計) 210件 (2022~2030年度)
	・外部機関との協業件数(単体)	(累計) 10件 (2022~2024年度)	(累計) 35件 (2022~2024年度)
生産技術・生産効率の向上	・生産キャパシティ(単体)	(2021年度比) + 10%	(2021年度比) + 33%
DXによる事業変革	・MI人材の育成(単体)	9人	20人
	・全従業員へのDX教育の実施(単体)	受講率100%	受講率100%
人権の尊重	・全従業員への人権・コンプライアンス研修の実施(国内)	受講率100%	受講率100%
	・仕入先への「ESGに関するアンケート」の実施(単体)	1回/年	1回/年
ステークホルダーとの対話	・投資家、既存株主との面談実施(単体)	140社以上/年	200社以上/年
	・顧客、取引先への顧客満足度調査の実施(単体)	1回/年	1回/年

[気候変動への対応(「持続可能な地球環境への貢献」)]

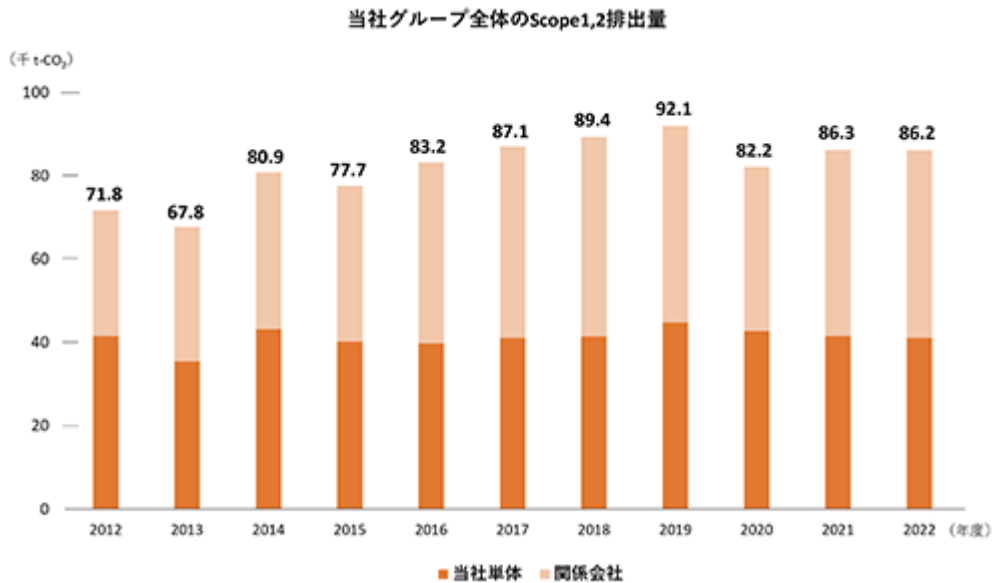
温室効果ガスの排出は、グループ全体の財務におけるリスク要因となるか、あるいは、脱炭素社会に受け入れられる製品を開発することにより、ビジネスチャンスにもつながります。当社ではグループ全体におけるCO₂排出量の削減に向けた中長期の排出量削減目標を設定するとともに、削減に向けた具体的な取り組みを計画し、指標も設定して取り組みの進捗を管理しています。

2022年度におけるリケンテクノスグループのScope1,2,3排出量

Scope1,2排出量：当社単体 41,139 t、当社グループ 86,220 t (当社単体 + 関係会社)

Scope3 カテゴリ1(購入原材料)に該当する排出量：当社グループ 701,748 t

調達量の8割弱に相当する主要原材料から算出

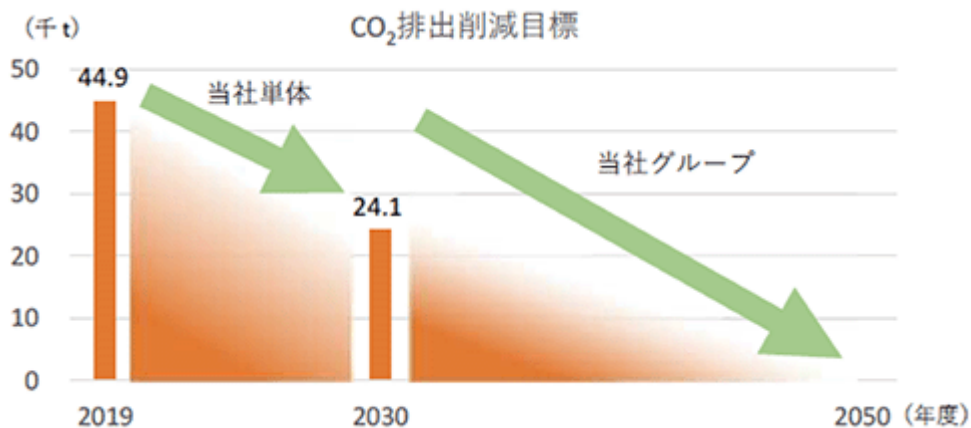


リケンテクノスグループの中長期CO₂排出量の削減目標

当社単体での2030年の目標値(Scope1,2) 24,139 t (2019年度比46.2%減)

(2019年度 基準値44,868 t)

当社グループ全体で「2050年カーボンニュートラル」を目指してまいります。

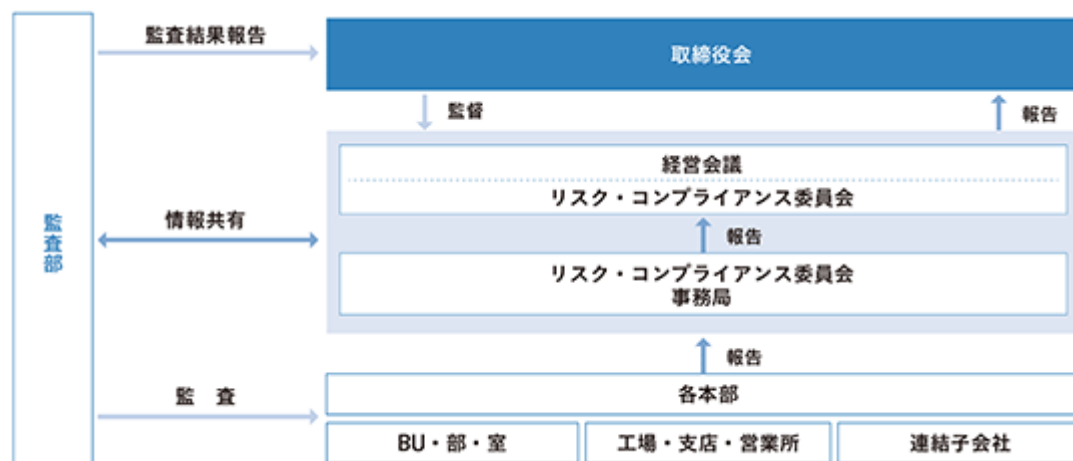


3 【事業等のリスク】

(1) 当社のリスクマネジメント体制

当社グループでは、リスクマネジメントの実効性を高めるとともにコンプライアンスの更なる向上を図るため、リスク・コンプライアンス委員会においてグループを取り巻くリスクを一元的に管理しています。リスク・コンプライアンス委員会では、グループ全体のリスクの洗い出しと分析・評価に加え、重要リスクの把握および重点対策リスクの特定、ならびにその対応策の策定を行っています。また、半期ごとにリスク対応策の進捗状況の確認と見直しを行い、必要に応じて関係各部門に対して改善指示を行うなど、グループ全体の総合的なリスク管理を行っています。

リスクマネジメント体制



(2) 当社のリスクマネジメントの運用状況

重要リスクの特定プロセス

当社では、期初に各本部・連結子会社において個別にリスク一覧を策定し、各リスクの発生可能性、影響度、対応状況の評価し、現存リスクの評価をおこなっています。リスク・コンプライアンス委員会がそれらを統合・評価した上で、グループ全体の重要リスクの把握と重点対策リスクの特定を実施し、その内容および選定プロセスについて取締役会で決議しています。

また、グループ・ガバナンス（内部統制）強化のため、網羅的・横断的にグループ全体のリスクの把握とその対応策実施状況および進捗の確認、リスク対応策の見直し・改善のPDCAサイクルを回し、グループ全体で一貫したリスクマネジメントを実施しています。

(3) 事業等のリスク

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

当社グループにおける重点対策リスクおよび対策

重点対策リスク	リスクの概要	対策の概要
1 自然災害・ 感染症の流行	・大規模な自然災害や感染症のまん延等により、事業活動に支障が生じるとともに、本邦・世界経済の大幅な減速により、財務状況に悪影響が生じるリスク	・自然災害・感染症のまん延等のリスク発生時の具体的な対応体制の確立 ・リスク発生に備えた計画策定
2 システムダウン・ 情報漏洩	・サイバー攻撃等によるシステムダウンや情報漏洩により社会的信用が失墜するリスク	・ITセキュリティ強化、ITリテラシー教育の推進 ・事故発生時の対応体制確立
3 環境事故	・民家に隣接する工場における環境事故等への対応の遅れにより、工場の操業継続が困難になるリスク	・環境問題（臭気、騒音、振動）への対応
4 設備の老朽化	・設備故障による生産停止のリスク ・設備部品が調達できず修理が困難になるリスク	・中長期設備更新計画および設備故障対策の立案
5 環境問題への対応 遅れ	・環境関連の法規制対応に不備が生じるリスク ・環境問題への対応の遅れによる競争優位性低下のリスク	・化学物質管理システムの改善 ・CO2削減計画の再評価
6 物流コスト上昇・ 物流遅延	・物流2024年問題等のドライバー不足による配送コスト上昇のリスク ・配送回数の削減により納期対応が困難になるリスク	・配送拠点、配送方法の見直し

重点対策リスク以外に当社が認識している主要なリスク

a. 技術革新および顧客ニーズへの対応について

当社グループが事業を展開する合成樹脂加工等の市場は、急速な技術変化と技術革新および顧客ニーズの変化に対応する新商品・サービスの提供の必要性を特徴としています。新技術の開発とその製品化および新製品・サービスの提供により、既存の製品・サービスは陳腐化または市場性を失う傾向があります。

当社グループは、常に技術と顧客ニーズの急速な変化を的確に把握し、それに対応した製品・サービスのマーケティングを行っていますが、かかる製品・サービスを常に提供することができるという保証はありません。当社グループがこれら新技術のトレンドの把握、顧客ニーズの予測や対応を誤った場合、当社グループの事業、業績および業務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

b. 資材等の調達について

当社グループの生産活動には、原材料、原反、製造装置等の設備、貯蔵品、その他の供給品のタイムリーな納入が必要です。当社グループの購入する原材料等には特殊なものがあるため、その中には、仕入先や供給品の切り替えが困難なものや、特定の仕入先からしか入手できないものもあります。当社グループは、当社グループが使用する原材料、原反、設備、その他の供給品が現在十分に確保されているものと認識しておりますが、供給の遅延・中断や業界内の需要増加、調達先の統合、倒産、廃業等があった場合、必要不可欠な原材料等の供給不足が生じる場合があります。これらの原因等により、当社グループが供給品を機動的に調達できない場合や、供給品の調達のために極めて多額の資金の支払が必要となる場合には、当社グループの業績が悪化する可能性があります。また、欠陥のある原材料、原反、設備、その他の供給品は、当社グループの製品の信頼性および評判に悪影響を及ぼす可能性があります。

c. 海外市場での事業拡大に伴うリスクについて

当社グループは海外市場での事業拡大を戦略の一つとしています。当社グループの海外における生産および販売活動の大部分は、米国や東南アジアおよび中国市場です。これらの海外における事業活動においては、政治経済情勢の悪化、輸出入および外貨の規制、予期しない法令の変更、テロ・戦争、その他の要因による社会的混乱、疫病の発生、人材および技術の流出など、当社グループの事業活動を阻害するリスクがあり、当社グループの業績、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

d. 製品の欠陥について

当社グループは、世界的に認められている品質基準に従って製品を製造しています。しかし、全ての製品について全く欠陥がなく、製造物責任を負うこともなく、リコールが発生しないという保証はありません。また、保険によってこれらに起因する費用の全てを賄える保証もありません。大規模なりコールや多額の製造物責任賠償を負担することにより、当社グループの業績、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

e. 原材料価格の大幅な変動による採算性悪化について

当社グループは、原油から精製されるナフサ由来のエチレン、プロピレン等の石化基礎製品から作られる誘導品を主材料としているため、その原材料価格は原油価格の変動の影響を大きく受けることとなります。原油価格は、全世界的な需給バランスのほか戦争、テロ、投機的な動き等予期せざる様々な原因により、乱高下を繰り返しており、今後もこの傾向は続くことが予想されます。また、植物由来の一部原材料では、地球温暖化等気候変動の影響を受けることが予想されます。原材料価格の変動を適時に製品価格に反映できない場合やコスト削減等により吸収できない場合等には、当社グループの業績、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

f. 外国為替相場の変動について

当社グループの事業には、海外における製品の生産・販売が含まれています。海外現地法人において、現地通貨で取引されている収支の各項目は、連結財務諸表を作成する際に円に換算されるため、結果として換算する時点での外国為替の変動に影響される可能性があります。また、為替相場の変動は、当社グループが現地で販売する製品の価格や、当社グループの現地生産品の製造・調達コストに影響を及ぼす可能性があり、現地市場の競争力や国内における販売価格にも影響をもたらす可能性があります。

g. 方針の不徹底、人材確保について

当社グループの企業理念や会社方針が十分に浸透せず、また、当社グループの事業戦略を遂行できる人材が流出したり確保できない場合、当社グループの競争力・収益力が想定されたように成長せず、当社グループの業績、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループ各社および関連部門において従業員同士のコミュニケーションに不足が発生した場合、業務遂行に悪影響を及ぼす可能性があります。

h. 労働災害・事故に関するリスクについて

当社グループでは、労働環境の維持・向上が経営戦略に重要な影響を及ぼすと認識し、働きやすい職場環境や職場の安全の維持・向上に努めています。しかしながら、当社グループにおいて重篤な労働災害、火災事故などの不測の事態が発生し、生産活動が停止した場合は、当社グループの業績、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

i. 法令違反・訴訟に関するリスクについて

当社グループの取締役、執行役員、従業員の法令違反等の有無にかかわらず、将来において予期せぬトラブルや訴訟等が発生する可能性があります。かかる訴訟が発生した場合には、その内容や金額によって、当社グループの業績、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業の生産活動の一部に弱さがみられたものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい行動制限が徐々に緩和されたことにより、個人消費が緩やかに回復し、総じて持ち直しの動きとなりました。

海外では、新型コロナウイルス感染症の再拡大により一部地域での足踏みがみられたものの、経済活動が徐々に回復し、全体としては緩やかな持ち直しの動きが続きしました。

産業別では、自動車市場は自動車生産台数がグローバルで回復し、国内の建材市場は住宅着工件数が弱含みで推移し、国内の家電市場は堅調に推移しました。

このような環境の中、当社グループは中期経営計画「Challenge Now for Change New 2024 変革への挑戦」の初年度として、「グローバル経営の深化とシナジー」「顧客の期待の先を行く」「新規事業／新製品への挑戦」「環境／社会課題解決への貢献」の4つの戦略の具体的な取り組みを行ってまいりました。

その結果、連結売上高は123,497百万円、前連結会計年度比(以下「前年同期比」)12.3%増加、連結営業利益は7,506百万円(前年同期比19.3%増加)、連結経常利益は7,964百万円(前年同期比15.6%増加)、親会社株主に帰属する当期純利益は4,557百万円(前年同期比15.6%増加)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

<トランスポーターション>

自動車生産が国内・海外で回復し、原材料価格高騰に伴う製品価格への転嫁もあり、増収となりました。

セグメント利益につきましては、国内・海外での販売が増加したことにより、増益となりました。

その結果、売上高は38,090百万円(前年同期比17.4%増)、セグメント利益は3,858百万円(前年同期比40.9%増)となりました。

<デイリーライフ&ヘルスケア>

国内では、新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあり、医療・生活資材市場向けコンパウンドの拡販により、増収となりました。

海外では、新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、ASEANでの医療市場向けコンパウンドの販売が増加し、増収となりました。

セグメント利益につきましては、食品包材における原材料価格高騰分の価格転嫁が遅れ、減益となりました。

その結果、売上高は33,492百万円(前年同期比9.1%増)、セグメント利益は1,477百万円(前年同期比20.4%減)となりました。

<エレクトロニクス>

国内では、電力・産業電線・情報通信向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収となりました。

海外では、米国、ASEANでの塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収となりました。

セグメント利益につきましては、国内および海外での販売が増加したことにより、増益となりました。

その結果、売上高は24,626百万円(前年同期比14.6%増)、セグメント利益は996百万円(前年同期比127.0%増)となりました。

<ビルディング&コンストラクション>

国内では、住宅着工件数は横ばいでありましたが、政府の「住宅省エネ2023キャンペーン」により樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収となりました。

海外では、北米での塩ビコンパウンドの販売が進み、増収となりました。

セグメント利益につきましては、国内のフィルム販売減少と原材料価格高騰分の価格転嫁の遅れにより、減益となりました。

その結果、売上高は27,186百万円(前年同期比8.1%増)、セグメント利益は1,050百万円(前年同期比7.1%減)となりました。

当連結会計年度末における総資産は、現金及び預金、売掛金等の売上債権の流動資産が6,549百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ9,361百万円増加し、112,002百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金等の流動負債が2,466百万円増加、繰延税金負債等の固定負債が177百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ2,644百万円増加し、39,837百万円となりました。

純資産は、利益剰余金等の株主資本が3,322百万円増加し、為替換算調整勘定等のその他の包括利益累計額が2,111百万円増加し、非支配株主持分が1,282百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ6,716百万円増加し、72,165百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ2,777百万円増加し、23,454百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は、前連結会計年度に比べ3,951百万円増加し、8,524百万円でした。その主な内容は、税金等調整前当期純利益7,962百万円、減価償却費3,597百万円、仕入債務の増加94百万円等による資金の増加、売上債権の増加1,117百万円、棚卸資産の増加128百万円、法人税等の支払1,697百万円等による資金の減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の支出は、前連結会計年度に比べ1,516百万円増加し、3,955百万円でした。その主な内容は、有形固定資産の取得による支出3,675百万円、無形固定資産の取得による支出311百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の支出は、前連結会計年度に比べ610百万円減少し、2,335百万円でした。その主な内容は、短期借入金の純増額557百万円、長期借入金の返済による支出617百万円、配当金の支払額(非支配株主への配当を含む)2,256百万円等による資金の支払であります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
トランスポーターション(千円)	36,970,753	117.3
デイリーライフ&ヘルスケア(千円)	34,436,918	120.0
エレクトロニクス(千円)	23,001,835	114.9
ビルディング&コンストラクション(千円)	24,320,137	114.3
報告セグメント計(千円)	118,729,644	117.0
その他(千円)	4,387	57.7
合計(千円)	118,734,032	117.0

(注) 金額は、販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

b. 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
トランスポーターション	38,134,766	116.2	2,644,019	109.2
デイリーライフ&ヘルスケア	34,015,818	111.1	1,917,625	148.0
エレクトロニクス	24,878,960	113.4	3,211,022	110.3
ビルディング&コンストラクション	27,888,200	110.7	2,763,765	135.7
報告セグメント計	124,917,745	113.0	10,536,432	121.6
その他	108,174	84.3	7,633	407.9
合計	125,025,920	112.9	10,544,065	121.6

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	前年同期比(%)
トランスポーターション(千円)	38,090,253	117.4
デイリーライフ&ヘルスケア(千円)	33,492,275	109.1
エレクトロニクス(千円)	24,626,546	114.6
ビルディング&コンストラクション(千円)	27,186,503	108.1
報告セグメント計(千円)	123,395,578	112.4
その他(千円)	102,412	78.8
合計(千円)	123,497,991	112.3

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

売上高

当連結会計年度の売上高は、123,497百万円、前連結会計年度比13,574百万円（12.3%）の増加となりました。国内での住宅・建築資材用塩ビコンパウンド、ASEANでの自動車及び医療用コンパウンド、国内外での電力・産業用電線用塩ビコンパウンドの販売がそれぞれ増加したこと及び、原材料価格上昇分の製品価格への転嫁が進み、また、円安の影響もあり増収となりました。

売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益

当連結会計年度の売上原価は、前連結会計年度比12,137百万円（13.3%）増加し、103,146百万円となりました。主な要因は、原材料価格高騰によるものです。また、販売費及び一般管理費は、前連結会計年度比222百万円（1.8%）増加し、12,845百万円となりました。主な増加要因は、研究開発費、減価償却費等の増加によるものです。

その結果、営業利益は、前連結会計年度比1,214百万円（19.3%）増加し、7,506百万円となりました。

営業外損益

当連結会計年度における営業外収益は、為替差益等により、前連結会計年度比103百万円（13.1%）減少の686百万円となり、営業外費用は、支払利息等により前連結会計年度比34百万円（18.0%）増加の227百万円となりました。

経常利益

当連結会計年度における経常利益は、前連結会計年度比1,075百万円（15.6%）増加の7,964百万円となりました。

特別損益

当連結会計年度における特別利益は、投資有価証券売却益等の減少により、前連結会計年度比96百万円減少の10百万円となりました。

また、当連結会計年度における特別損失は、減損損失等の減少により、前連結会計年度比507百万円減少の13百万円となりました。

税金等調整前当期純利益

税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度比1,486百万円（23.0%）増加の7,962百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度比616百万円（15.6%）増加の4,557百万円となりました。

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 3 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は、「第2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加、棚卸資産の増加額減少により、前連結会計年度比で増加しております。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に製造設備への投資となりますが、事業計画に基づいており、その投資額につきましては適切であると認識しております。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加等により、前連結会計年度比で支出が減少しております。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性についての分析につきましては、次のとおりであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資やその他の投資資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

当社グループは、中長期的に安定した成長のため製造設備への投資が必要となりますが、投資額については適切に管理されており、資金の流動性に問題はないと認識しております。

なお、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は10,577百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は23,454百万円となっております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

4月から中期経営計画の2年目が始まりました。当社の基盤技術は「処方設計技術」「コンパウンド生産技術」「フィルム製膜技術」「フィルム加工技術」の4つの技術と考えます。中期経営計画では、もう一度基本に立ち返りものづくりに徹していくことが重要と考え、技術本部方針としてこの「基盤技術を強化しイノベーションを創出する」「カスタマーデライト商品のスピード開発」「DXを活用した、開発スタイルに転換」を掲げるとともに、それに対応した組織体制を見直しました。

今期は、中期経営計画で策定している研究拠点である研究開発センターの環境整備などハード面の充実を図ってきました。コンパウンド、フィルム技術の更なる深化のため、研究開発センター東京1号館、2号館、3号館の本格運用を目指して3号館のリフォームを実施。3号館にフィルム試作機を導入し、コンパウンドで開発した材料をフィルム、シートにしてサンプルワークが出来る体制を目指します。また、埼玉にフィルム加工用コーター試作機を改造し導入し、コーティング、粘着加工生産技術の向上とサンプルワークの迅速化を図りたいと考えています。また、今期には2号館にゴム代替TPVコンパウンド開発のための混練機を含めた新しいTPV生産のためのパイロットラインを完成させてあらゆるゴムをTPV化していきます。また、開発したゴム代替コンパウンドをゴムシート代替として上市していきたいと考えています。このパイロットラインでしっかり生産技術を磨き将来実機導入ラインの研究に努めたいと考えています。これは、当社の基盤技術研究部を中心に進めています。

コンパウンド、フィルム処方設計技術統合を目的に組織改造：カレンダー、食品包材配合・製膜技術担当するグループを東京に新設し処方設計技術に長けたコンパウンド開発部隊に統合しました。それにより、フィルム配合自体、孤立した環境で処方設計の視野が狭くなり、コンパウンドの進んだ処方設計技術との互換性を失い孤立して取り残される危険性を危惧したこともあり当社の基盤技術である処方設計技術を統合していく目的で進めました。

知財戦略強化、オープンイノベーションの実行については、サステナビリティやESG（環境、社会、ガバナンス）の推進など、昨今の社会変化に対応していくためには、多面的な視点から経営戦略を策定することが不可欠です。そこには、知財情報活用であるIPランドスケープが有効であり、今年6月に改訂された、コーポレートガバナンス・コードに初めて「知的財産」についての項目が追加されたこともあり、自社の経営課題に対して知財がどう貢献しているのかを適切に開示する必要が出てきます。当社も取締役会において知財部所属の弁理士によるフィルム事業において当社の保有する知的財産、他社保有の知的財産から勘案した事業方針についての提言を行いました。

オープンイノベーションについては、3つの大学と1つの研究機関と開発を進めています。今年に新しく進めたものは、TLO（技術移転機関）を使い共同研究機関（大学）の選定とテーマ化まで進めました。

今期は、整ってきたハード面を使いこなすために、ソフト面の充実を図っていききたいと考えています。その一つは、MI（マテリアルズインフォマティクス）の導入です。

製品のライフサイクルはどんどん短くなり、かつ顧客の要求はますます多様化して、複雑なものになっています。多様化が進み「実験至上主義」的な方法では材料開発のスピードが追いつきません。データ駆動型の研究開発を行って効率化・高速化を図らないとダメだと考えマテリアルズインフォマティクス（MI）の導入を実施しました。現在、基礎研究テーマで進めていますがその効果と有効性は将来の研究開発の進め方の主軸になると確信しています。

MIの利点は大きく2つあります。1つは、実験回数を減らし、データ駆動で埋められるので、より早く最適解にたどり着けることです。要は、開発時間の短縮です。

もう1つは、未知の領域に飛び込めるチャンスを与えてくれることです。多くの人がそうであるように、研究者も過去の実験や知見などから構築した思考領域を持っており、基本的にその範囲内でしか考えが及びません。自分が持つ思考領域から外れた所にあるアイデアは、なかなか思い浮かばないものです。これに対し、MIを使うと、狭い思考領域から解き放たれて未知の新しい領域を切り開ける可能性があるのです。つまり、研究者の想像を超えた最適解にたどり着くことができ、従来にはない画期的な材料を生み出せるチャンスがあるというのが、MIのもう1つの利点であります。

顧客が望むのは常に新しいもの、すなわちデータベースの外側にある要求です。その要求が、データベースからちょっとだけ外れたものであれば、内側のデータを使ってM Iで立てた予測式でも解を出せます。しかし、ずば抜けて違う要求にはやはり解を出せません。最終的には研究者がその解を決めることに変わりありません。

次は、カーボンニュートラル、サーキュラエコノミー等に対応した製品の創出です。脱炭素社会へ移行するために市場が大きく変化することが想定されます。当社は、プラスチック加工メーカーとしてこのような気候変動による社会的・経済的影響について、重要な経営課題と認識し、T C F D（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同を2022年6月に表明しました。T C F Dの提言に従い、積極的な情報開示に努めていきたいと考えています。このようにプラスチックを取り巻く環境は大きな変革を求められている中、2019年バイオマスプラスチックであるRIKEBIO、今年、天然素材（茶殻、もみ殻、貝殻など）を練り込んだNatural RIKEBIOを開発しており、お客様と共同で用途開発などを進めており実績も出てきています。また、合成ゴムに比べ省エネルギー素材、C O 2排出量が圧倒的に削減できる熱可塑性エラストマーを合成ゴム代替として普及させることがRIKEBIOの拡販と共にこれからの大きな課題となります。また、この環境問題は当社にとって単なる『制約条件』だけでなく、攻めに転じることができる『挑戦機会』にもなります。ただし、いくら素材が環境に良くても、選ばれなければ環境負荷を抑えることはできません。多くのひとに選ばれるためには、お客様にとって有用で手が届くものを意識して開発を進めています。

当連結会計年度の成果として、

コンパウンド関係

1. 「リケガード」（抗菌・抗ウイルス・防虫）に新シリーズ消臭、抗アレルギーコンパウンドの開発
2. 完全架橋エラストマーである「アクティマーG」の自動車部品への販売拡大
3. 高耐熱・柔軟EV車用充電ケーブルの販売拡大
4. バイオマス材料である「RIKEBIO」、「Natural RIKEBIO」上市
5. 自動車用グラスランチャネル部材の全日系車への採用拡大
6. 人肌に馴染む柔軟素材「LEOSTOMER FT」の上市
7. 非P b非S n系射出用硬質P V C材料の上市
8. A C Sの脱S n材料の上市
9. 医療用T P E材の採用拡大

等で開発が進み、一部流動することができました。研究開発費は、1,025百万円であります。

フィルム関係

1. 「リケガード」（抗菌・抗ウイルス・防虫）フィルムの採用拡大
2. 各種塗装代替フィルムの開発
3. 建装材用意匠性フィルムの流動
4. 医薬品包装用フィルムの流動
5. 高耐湿・高耐熱性F F C用フィルムの流動
6. ガラス代替フィルム「REPTY DC100」の製品化展開
7. 遮熱ウィンドウ用フィルム「ICE-μ」の展開拡大
8. バイオマスフィルムである「RIKEBIO」フィルムの開発

等で開発が進み、一部の製品を流動できました。研究開発費は、518百万円であります。

食品包材関係

- 1．自動包装機メーカー向け純正ノンストレッチPVCラップフィルムの販売拡大
- 2．食品包材の海外拡販検討
- 3．食品スーパーマーケット・バックヤード向け小型包装機用PVCラップフィルムの開発と採用
- 4．業界団体とのコラボレーションによるPVCラップフィルムの広報活動
- 5．製膜加工機における混練技術の基礎研究
- 6．バイオマスラップ ポタニカルラップ上市
- 7．鮮度保持フィルムの開発

等の活動に要した研究開発費は、87百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、生産設備の能力増強、合理化、品質向上を図るとともに、「成長分野への経営資源の配分」に重点を置き、当連結会計年度は全体で3,909百万円の設備投資を実施いたしました。

また、市場別セグメントを採用しておりますが、多くの製造設備は各セグメント共通で使用しているため、一部のセグメントを特定できる設備以外の投資額は全社共通に分類しております。その結果、DHにおいて222百万円、ELにおいて23百万円、その他及び全社共通として3,664百万円の設備投資を行いました。

また、製品別の区分では、コンパウンドにおいて2,052百万円、フィルムにおいては385百万円、食品包材においては224百万円、その他及び全社共通として1,247百万円の設備投資を行いました。

所要資金については、自己資金及び借入金を充当いたしました。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2023年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
埼玉工場 (埼玉県深谷市)	DH 共通	合成樹脂加工設備 及び研究開発設備	1,364,934	1,013,854	891,756 (59,291.2)	5,237	194,649	3,470,433	248
三重工場 (三重県亀山市)	DH 共通	合成樹脂加工設備 及び研究開発設備	1,041,764	1,384,072	383,001 (55,247.4)	1,286	52,022	2,862,147	253
群馬工場 (群馬県太田市)	EL	合成樹脂加工設備	581,005	18,930	1,273,100 (55,903.8)	-	12,933	1,885,969	28
名古屋工場 (愛知県名古屋市)	DH	合成樹脂加工設備	241,951	304,280	-	-	14,015	560,247	8
研究開発センター (東京) (東京都大田区)	共通	研究開発設備	895,517	268,212	1,032,180 (4,381.9)	-	105,105	2,301,015	66
本社等 (東京都千代田区)	共通	その他設備	115,057	55,109	555,955 (22,012.7)	2,327	61,351	789,802	136

(2) 国内子会社

2023年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
リケンケーブル テクノロジー(株)	本社 (埼玉県入間市)	EL	合成樹脂 加工設備	93,328	108,086	206,210 (5,425.5)	3,352	6,738	417,717	62
(株)協栄樹脂製作所	白河工場 (福島県西白河 郡)	共通	合成樹脂 加工設備	57,853	14,424	25,719 (10,383.0)	-	895	98,892	57
リケンケミカル プロダクツ(株)	本社 (滋賀県湖南市)	共通	合成樹脂 加工設備	69,954	59,763	363,017 (16,734.8)	2,334	2,224	497,294	43

(3) 在外子会社

2023年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
				建物及び構 築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
RIMTEC CORPORATION	本社 (アメリカ合衆国 ニュージャ ージー州)	共通	合成樹脂 加工設備	399,310	993,212	83,839 (87,563.0)	-	115,754	1,592,117	96
RIKEN ELASTOMERS CORPORATION	本社 (アメリカ合衆国 ケンタッキー州)	共通	合成樹脂 加工設備	2,344,556	1,227,695	106,493 (97,125.6)	-	84,089	3,762,834	45
RIKEN(THAILAND) CO.,LTD.	本社 (タイ王国 パトムタニ県)	共通	合成樹脂 加工設備	454,409	650,469	537,444 (69,672.0)	-	943,356	2,585,679	274
RIKEN ELASTOMERS (THAILAND)CO.,LTD.	本社 (タイ王国 アユタヤ県)	共通	合成樹脂 加工設備	715,744	173,440	179,649 (23,220.0)	0	13,549	1,082,383	34
PT.RIKEN INDONESIA	本社 (インドネシア 共和国 ウエストジャワ 州)	共通	合成樹脂 加工設備	645,947	383,507	372,401 (46,617.0)	40,608	26,093	1,468,558	220
上海理研塑料 有限公司	本社 (中華人民共和國 上海市)	共通	合成樹脂 加工設備	525,199	566,087	-	-	74,077	1,165,364	110
理研食品包装 (江蘇)有限公司	本社 (中華人民共和國 江蘇省)	DH	合成樹脂 加工設備	145,773	162,499	-	-	38,772	347,045	47
RIKEN VIETNAM CO.,LTD.	本社 (ベトナム 社会主義共和国 ピンズオン省)	共通	合成樹脂 加工設備	591,907	539,116	-	-	332,086	1,463,110	69

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品と建設仮勘定の合計額であります。
2 現在休止中の主要な設備はありません。
3 臨時従業員数の総数が従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループの設備投資については、生産計画、需要予測、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。設備計画は連結子会社が個々に策定しておりますが、当社グループ全体の設備計画との調整を行っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修等に係る計画は、以下のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の 名称	設備の 内容	投資予定金額 (百万円)		資金 調達方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額	既支払額		着手	完了	
RIKEN(THAILAND)CO.,LTD.	タイ王国 バトムタニ県	TR DH EL BC その他	合成樹脂 加工設備	1,500	846	自己資金 及び 借入金	2021年 9月	2023年 6月	生産能力 10%増

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	236,000,000
計	236,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2023年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年6月16日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	64,113,819	64,113,819	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	64,113,819	64,113,819		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年8月17日(注)	2,000	64,113		8,514,018		6,532,977

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(5) 【所有者別状況】

2023年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	22	28	111	121	20	10,427	10,729	-
所有株式数(単元)	-	249,865	8,953	189,973	85,415	229	106,099	640,534	60,419
所有株式数の割合(%)	-	39.01	1.40	29.66	13.33	0.04	16.56	100.00	-

(注) 1. 自己株式348株は「個人その他」に3単元及び「単元未満株式の状況」に48株を含めており、信託E口が保有する当社株式854,300株は「金融機関」に8,543単元含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、20単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2023年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	6,105	9.52
信越化学工業株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	3,300	5.15
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	2,907	4.54
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2番1号	2,907	4.53
損害保険ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	2,500	3.90
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4番2号	2,363	3.69
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番1号	2,280	3.56
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	2,101	3.28
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,995	3.11
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	1,849	2.88
計		28,311	44.16

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 854,600	8,543	
完全議決権株式(その他)	普通株式 63,198,800	631,988	
単元未満株式	普通株式 60,419		
発行済株式総数	64,113,819		
総株主の議決権		640,531	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式48株が含まれております。

【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) リケンテクノス株式会社	東京都千代田区神田淡路 町2丁目101番地	300	854,300	854,600	1.33
計		300	854,300	854,600	1.33

(注) 他人名義で保有している理由等

保有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(BBT)」制度の 信託財産として587,900株保有	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号
「株式給付信託(従業員持株会処 分型)」制度の信託財産として 266,400株保有	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

(株式給付信託(B B T))

当社は、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会決議及び2021年6月18日開催の第92回定時株主総会決議(注)に基づき、業務執行をする取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び執行役員が、中長期的な業績の向上及び企業価値の増大に貢献する意識を高め、業務執行をしない取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び監査等委員である取締役が、監督又は監査を通じた中長期的な企業価値の増大に貢献することを目的として、新たな株式報酬制度「株式給付信託(B B T)」を導入しております。

当該制度の概要

本制度は、あらかじめ定めた役員株式給付規程に基づき、取締役等(取締役及び執行役員)に対しポイントを付与し、退任時に受益者要件を満たした者に対し、付与されたポイントに相当する当社株式を給付いたします。給付する株式については、あらかじめ当社が拠出した金銭により信託銀行が将来給付分も含めて第三者割当による自己株式を譲受し、信託財産として分別管理しております。

(注) 2021年6月18日開催の第92回定時株主総会決議にて本制度の内容を一部改訂しております。

株式給付信託(B B T)に取得させる株式の総数

2016年9月14日付で自己株式476,100株、2020年3月12日付で自己株式329,500株を信託しており、その株式の総数は805,600株であります。

当該制度による受益権その他権利を受けることができる者の範囲

取締役等(取締役及び執行役員)を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者

(株式給付信託(従業員持株会処分型))

当社は、2021年2月22日開催の取締役会の決議により、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」を導入しております。

当該従業員株式所有制度の概要

本制度は、「リケンテクノス従業員投資会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブ・プランです。

信託の設定後5年間にわたり持株会が取得する見込みの当社株式を、本制度の受託者である信託銀行が予め一括して取得し、持株会の株式取得に際して当社株式を売却していきます。信託終了時まで、信託銀行が持株会への売却を通じて本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、それを残余財産として受益者適格要件を充足する当社従業員持株会会員に分配します。また当社は、信託銀行が当社株式を取得するための借入に対し保証をしているため、信託終了時において、当社株価の下落により当該株式売却損相当の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

従業員持株会に取得させる予定の株式の総数

464,300株

当該従業員株式所有制度による受益権その他権利を受けることができる者の範囲

受益者適格要件を充足する当社従業員持株会会員

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	202	94,320
当期間における取得自己株式	194	110,863

(注) 当期間における取得自己株式数には、2023年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	348	-	542	-

(注) 1. 当期間における保有自己株式数には、2023年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

2. 財務諸表及び連結財務諸表においては、信託E口が所有する当社株式854,300株を自己株式として計上しております。

3 【配当政策】

当社は、中長期的な企業価値の向上を通して株主還元を図ることを経営上の重要課題の一つと位置付けており、配当につきましては、連結配当性向35%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資と自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当につきましては、中間期末日(9月末日)及び期末日(3月末日)の年2回を基準日として、金銭により実施することを基本としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当につきましては株主総会、中間配当につきましては取締役会であります。

上記の方針に基づき当期の配当につきましては、普通配当25円(うち中間配当9円)を実施いたしました。

その結果、当連結会計年度の連結配当性向は34.7%となりました。

内部留保資金につきましては、高成長が見込める高付加価値新製品の研究開発、既存事業の再構築、海外事業の拡充、環境対策等に投資するとともに、企業体質の強化に向け有効に活用しております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2022年10月31日 取締役会決議	577,021	9

配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金8,136千円が含まれております。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2023年6月16日 定時株主総会決議	1,025,815	16

配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金13,668千円が含まれております。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、企業理念である「リケンテクノスウェイ」の実践をとおして持続的に成長し、中長期的に企業価値を向上していくために、経営上の組織体制や仕組みを整備し、必要な施策を実施していきます。コーポレート・ガバナンスの強化を経営上の重要な課題のひとつと位置付けることで、当社グループ全体で実効的なガバナンスの仕組みを整備し、グループ競争力の強化と経営の透明性、公正性の確保に努めてまいります。

企業統治の体制

a. 企業統治の体制の概要

当社は、取締役会の監督機能の強化、経営の透明性・公正性の向上及び機動的・戦略的な経営体制の構築を図るため、監査等委員会設置会社形態を採用しております。

1) 業務執行

当社は、執行役員制度を導入し、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、併せて業務執行権限の大幅な委譲を推進することにより、機動的・戦略的な経営体制の構築を図っております。これに伴い、執行役員で構成される経営会議を業務執行の主要な決議機関と位置付けております。

経営会議は、毎月取締役会に先立って開催され、取締役会上程事項の事前審議のほか、取締役会から権限委譲された重要な業務執行の審議・決定を行うことにより、迅速な意思決定を行っております。また、取締役会での決議事項や審議・報告事項の伝達と執行役員間の連絡及び情報共有を図ることを目的として執行役員会を設置し、毎月取締役会後の一定期間内に開催しております。

2) 監査・監督

当社の取締役会は、経営の基本方針やガバナンス等の経営監督事項の検討・審議を主たる役割としており、独立社外取締役を3分の1以上選任することにより、監督機能の強化と監督の実効性の向上を図っております。2022年度は、取締役会を16回開催し、ガバナンス等の経営監督事項のほか、マテリアリティ、TCFD提言に沿った開示対応を中心とした気候変動問題、政策保有株式の保有適否の検証、後継者計画（サクセッション・プラン）の進捗・見直し、連結子会社の吸収合併等につき審議いたしました。また、工場・研究所において取締役会を開催し、テーマを決めて現場社員とのディスカッションや現場視察を実施いたしました。

当社は取締役会の機能向上のため、毎年その実効性の評価・分析を行っております。

各取締役の出席状況および取締役会の実効性評価結果は、以下の〈個々の取締役の出席状況〉および〈取締役会の実効性評価〉に記載のとおりであります。

監査等委員会は、社外取締役4名を含む5名で構成し、常勤の監査等委員を選定することにより、社内での迅速な情報収集と社外取締役との密な情報共有を可能としております。また、監査等委員会の直轄組織として監査部を設置し、その指揮命令・報告体制を明確に定めることにより、内部統制システムを利用した組織的かつ実効的な監査を実施できる体制を整えております。

監査等委員は、取締役会、その他経営会議等の重要な会議に出席するほか、重要な決裁書類を閲覧するなど取締役の職務執行について厳正な監視を行っております。また、会計監査人から監査計画の説明・監査状況の聴取・監査結果の報告を受けるとともに、半期毎に監査等委員会、会計監査人、監査部の3組織による意見交換会議を行うなど、緊密な連携を図っております。

3) 指名・報酬決定

取締役候補者の指名及び執行役員の選任にあたっては、取締役会が事前にその過半数を独立社外取締役に組織する指名委員会に諮問した上で、その答申結果を尊重して決定しております。2022年度は、社外取締役（監査等委員）早川貴之を議長とする指名委員会を3回開催し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）および執行役員候補者の選定に関する事項ならびに後継者計画（サクセッション・プラン）等につき審議いたしました。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び監査等委員である取締役の報酬につきましては、株主総会の決議により、それぞれの報酬総額の限度を決定しております。

各取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び執行役員の報酬額を決定するにあたっては、取締役会が事前にその過半数を独立社外取締役に組織する報酬委員会に諮問した上で、その答申結果を尊重して決定しております。2022年度は、社外取締役（監査等委員）中村重治を議長とする報酬委員会を3回開催し、取締役（監査等委員である取締役を除く。）および執行役員の個人別報酬（基本報酬・業績連動賞与・株式給付）につき審議いたしました。

各監査等委員である取締役の報酬額は、株主総会で定められた限度額内で監査等委員の協議により決定しております。

また、取締役の個人別の報酬等の内容についての決定方針につきましては、下記(4)に記載しております。

各委員の出席状況は、以下の<個々の取締役の出席状況>に記載のとおりであります。

<個々の取締役の出席状況>

役職	氏名	取締役会	指名委員会	報酬委員会
代表取締役 社長執行役員	常盤 和明	16/16回 (100%)	3/3回 (100%)	3/3回 (100%)
代表取締役 専務執行役員	入江 淳二	16/16回 (100%)	3/3回 (100%)	3/3回 (100%)
取締役 常務執行役員	梶山 学之	16/16回 (100%)	-	-
取締役 上席執行役員	杉野 等	16/16回 (100%)	-	-
取締役 (常勤監査等委員)	小泉 真人	16/16回 (100%)	-	-
取締役 (監査等委員)	早川 貴之	16/16回 (100%)	3/3回 (100%)	3/3回 (100%)
取締役 (監査等委員)	中村 重治	16/16回 (100%)	3/3回 (100%)	3/3回 (100%)
取締役 (監査等委員)	江原 茂 (注)	13/13回 (100%)	2/2回 (100%)	2/2回 (100%)
取締役 (監査等委員)	末村あおぎ (注)	13/13回 (100%)	2/2回 (100%)	2/2回 (100%)

(注) 2022年6月17日の就任以降における出席状況を記載しております。

<取締役会の実効性評価>

(1) 分析・評価の方法

2023年3月に取締役全員(9名)を対象として2022年度の実効性評価に関するアンケート(無記名式)を実施し、同年4月開催の定時取締役会において、その回答内容をもとに、実効性の分析・評価、今後の課題及び取組内容について議論を行いました。以上の議論を踏まえ、同年5月開催の定時取締役会において、2022年度の実効性評価を確定いたしました。

[2022年度重点評価項目]

知識・知見向上に関する体制、内部統制、全社的リスクマネジメントの高度化、株主・投資家との関係、サステナビリティを巡る課題への取組みの推進
 なお、上記の重点評価項目とは別に、前年度の実効性評価結果を踏まえた取組みの成果・課題、取締役会の構成(社外取締役)・運営状況・議題、個々の取締役に求める事項に関する「自己評価」については、毎年継続して確認する方針です。

(2) 実効性の分析・評価結果の概要

当社の取締役会は、全体として適切に機能しており、その実効性は十分に確保されていると分析・評価いたしました。特に、以下の点において、実効性が確保されていることを確認いたしました。

- ・マテリアリティや企業価値向上策に関して、取締役・執行役員懇談会や経営会議/取締役会など社外取締役も参加する場において、適時適切な議論がなされた。また、決算・経営概況説明会の在り方や「統合報告書」発刊に向けた議論など、株主/投資家との対話を促進するための取組みについても同様に十分な議論がなされた。
- ・工場/研究所における取締役会では、テーマを決めた現場社員とのディスカッションや現場視察を通じて、経営課題に対する認識の深化や共有化が効果的に行われた。

(3) 前年度の実効性の評価結果を踏まえた取組みの成果・課題

前年度の実効性の評価結果を踏まえ、以下のとおり取組みを進めました。

- ・コーポレート・ガバナンスの高度化
 女性取締役を選任して取締役会の多様性を確保するとともに、社外取締役1名を増員して取締役会の

監督機能を高めた。また、取締役のトレーニング内容を抜本的に見直し、工場/研究所における取締役会の開催や取締役・執行役員懇談会の実施方法の見直しなど、コーポレート・ガバナンスの高度化に向けた取組みを実施した。

・グループ統制の強化

連結子会社の統制における実質面の強化として、中期経営計画説明会や半期ごとの定期説明会の実施、グローバル製造会議の開始など、グループ間のコミュニケーションを拡充した。また、連結子会社の吸収合併や本社移転（当社と同フロアに入居）を実施するなど、グループ経営合理化/グループシナジー最大化のための取組みを進めた。

・サステナビリティを巡る課題への取組みと積極開示

気候変動への取組みについて、TCFD提言に基づく情報開示に加えCDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）を通じた開示も実施するなど、積極的な情報開示を進めた。また、新設したサステナビリティ委員会を中心として、中長期的な目線で当社を取り巻く重要課題について議論し、マテリアリティの特定とKPIの設定を行った。

(4) 実効性を更に高めるための課題および今後の取組内容

当社の取締役会は、全体として実効性が十分に確保されていることを確認いたしました。以下の点につき、引き続き議論を重ね、更なる実効性の向上に努めてまいります。

- ・グループ統制は着実に進展しているが、更に実効性を高めていくため、新設したエリア統括の役割やグループガバナンス/リスク管理体制の在り方について議論を深めていく。また、連結子会社経営陣に対する一段の指導・教育を通じて統制を強化していく。
- ・株主/投資家との建設的な対話を促進するため、企業価値向上策や「統合報告書」発刊に向けた議論を進め、財務・非財務の両面において情報開示を拡充する。また、株主と直接対話をする機会を増やし、積極的なIR・SR活動を展開していく。
- ・サステナビリティを巡る課題への取組みについて、人的資本や知的財産の課題につき議論を深めるほか、2022年度に特定したマテリアリティをもとに当社グループの事業面において資源配分も含め戦略的に具現化していくことで取組みを本格化する。

b. 現状の体制を採用する理由

当社は、取締役会の監督機能の強化、経営の透明性・公正性の向上及び機動的・戦略的な経営体制の構築を図るため、監査等委員会設置会社形態を採用しております。具体的には、以下のとおりであります。

1) 取締役会の監督機能の強化

経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の分離により権限と責任の所在を明確にするとともに、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つことで経営に対する監査・監督機能を強化しております。

2) 経営の透明性・公正性の向上

監査等委員である社外取締役として、独立性、社外性の確保された4名を選任しており、経営に対し独立した第三者的立場から監査・監督と助言を行うことにより、意思決定における透明性と公正性の向上を図っております。

3) 機動的・戦略的な経営体制の構築

執行役員制度の導入と併せて、業務執行権限の大幅な委譲を推進し、経営会議を業務執行の主要な決議機関と位置付けることにより、事業環境の急激な変化にも適切かつ迅速に対応できる機動的・戦略的な経営体制の構築を図っております。

c. 内部統制システムの整備の状況

当社及び当社子会社(以下、「グループ各社」という。)は、「リケンテクノスウェイ」及び「リケンテクノスグループ企業行動規範」を実践・遵守して企業活動を行うことを宣言しておりますが、そのより確実な実現のためにも、内部統制システムとして業務が適正かつ効率的に行われることを確保するための体制を整備することが必要不可欠の施策であると位置付けております。

会社法及び会社法施行規則に基づき、以下のとおり内部統制システムを整備しております。

1) 取締役・使用人の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

(a) 代表取締役をはじめとした全取締役は、「リケンテクノスグループ企業行動規範」及び法令・定款遵守がすべての企業活動において基本であることを全役職員に徹底させる。

(b) リスク・コンプライアンス委員会の活動内容は取締役会に適宜報告される。

また、総務・法務部は全役職員に対しコンプライアンス教育を実施する。

(c) 法令・定款・「リケンテクノスグループ企業行動規範」・各種指針その他会社及び取締役・使用人が従うべき基準(以下「法令等」という。)に違反する疑いのある行為等を通報することができる内部通報の窓口を監査部及び顧問法律事務所に設置する。

(d) グループ各社は、市民社会の安全や秩序に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たない。

また、反社会的勢力及び団体からの不当な要求に対しては、毅然とした姿勢で臨み決して屈しない。

2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「情報管理規程」に従い取締役の職務の執行に係る情報は管理され、文書及び電磁的媒体に保存される。

保存された情報については、「情報管理規程」に従い閲覧が可能である。

3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

各部門に関する個別のリスク管理は各部門が行うが、全社的横断的なリスクの管理のためにリスク・コンプライアンス委員会を設置し、社長が委員長に就任する。

4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

(a) 取締役会は、中期経営計画・通期経営計画を策定している。

(b) ITを活用した月次業績データに基づき、取締役会は経営計画の進捗状況を把握し、計画達成のために必要な施策を検討し、実施する。

(c) 毎月開催される経営会議は、積極的な権限委譲による迅速な業務執行機能を担う。製造部門・品質保証部門、技術部門、営業部門及び購買部門については各々四半期毎に開催される製造品質部門会議、技術部門会議、営業部門会議及び購買部門会議において、その他の部門については毎月開催される各部門内の会議において、業務進捗状況の確認がなされ、必要に応じた対応が適宜実施される。

5) グループ各社における業務の適正を確保するための体制

(a) 経営企画本部は、当社連結子会社の経営管理全般の所管部署として、当社連結子会社の内部統制システムの構築の指導及び情報の共有化の徹底を所管する。

経営企画本部及び各本部は、「リケンテクノスグループ連結子会社管理規程」等に基づき、各所管業務の進捗管理を図り、当社に対する報告及び当社における承認が適切に実施されるように当社連結子会社を管理・監督する。また、これらの管理・監督を通じて損失の危険を管理する。

経営企画本部は、社長、担当執行役員及び管理本部長参加のもと国内連結子会社については最低年2回、海外連結子会社については最低年1回の業務報告会を開催する。

また、経営企画本部は当社連結子会社より提出された月次報告(財務データを含む)を取り纏め、取締役及び執行役員並びに関係部署に配付する。

(b) 総務・法務部は、「リケンテクノスグループコンプライアンスマニュアル」をグループ各社の役職員に周知徹底させ、グループ各社のコンプライアンス体制の整備及び問題の解決に努める。

(c) 監査部は、定期的にグループ各社の業務監査を実施し、全ての業務活動が法令等に適合することを確認するとともに、経営諸規程に基づいて効率的に運営され、また、経営諸規程が経営目標達成のために適切に機能しているかを点検・評価する。

6) 監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項、当該取締役及び使用人の他の取締役(監査等委員である取締役を除く。)からの独立性に関する事項並びに監査等委員会の当該取締役及び使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査等委員会の職務を補佐する直轄の組織として監査部を設置し、専任の使用人を複数名配置する。

当該使用人の独立性を確保するため、その指揮命令権を専ら監査等委員会に委譲し、取締役(監査等委員である取締役を除く。)のほか、業務執行部門の指揮命令を受けないこととする。また、当該使用人の人事異動・人事評価・懲戒処分等の決定については、事前に監査等委員会の同意を得るものとする。

なお、監査等委員会の職務を補助すべき取締役は置かない。

7) 当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)、執行役員及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制

(a) 監査等委員は、取締役会及び経営会議等の重要な会議に出席する。

(b) 当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)、執行役員及び使用人は、法定事項に加え、グループ各社に重大な影響を及ぼす事項(取締役、執行役員又は使用人の行為が、法令等に違反するおそれがあり、または、著しい損害が発生するおそれがあると認められる場合における当該事項を含む。)について監査等委員会に報告する。

(c) 監査部は、その内部監査状況について、原則として毎月、監査等委員会に報告する。

(d) 当社連結子会社の取締役、監査役及び使用人は、当該連結子会社、その取締役又は使用人の行為が、法令等に違反するおそれがあり、または、著しい損害が発生するおそれがあると認められるときには、当該事項について、「リケンテクノスグループ連結子会社管理規程」に定める報告を行うほか、直ちに当社の監査等委員会に報告する。

(e) 監査等委員会に報告をした者は、その報告したことを理由として、人事上その他一切の点において不利益な取扱いを受けない。

8) 監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査等委員は当社に対し、その職務の執行について生ずる費用の前払、支出した費用の償還又は負担した債務の弁済等の請求を行うことができ、当社は、速やかにこれに応じる。

9) その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(a) 監査等委員会の直轄の組織である監査部との連携を強化し、必要に応じて合同で国内外の監査を実施することにより、組織的かつ実効的な監査を行う。

(b) 毎月開催される取締役会の場において、代表取締役と監査等委員の意見交換を行い、実効的な監査を実施するために必要な意見や情報を速やかに伝達する。

(c) 半期毎に監査等委員会、会計監査人、監査部の3組織による意見交換をする会議を行う。

d. リスク管理体制の整備の状況

当社のリスクについての基本的な考え方は、迅速な情報収集とスピードある対策を実施し、リスクを最小限に抑えることにあります。

この考え方のもと、リスク・コンプライアンス委員会において、グループ全体のリスクの洗い出しと分析・評価に加え、重要リスクの把握および重点対策リスクの特定、ならびにその対応策の策定を行っています。また、半期ごとにリスク対応策の進捗状況の確認と見直しを行い、必要に応じて関係各部門に対して改善指示を行うなど、グループ全体の総合的なリスク管理を行うとともに、グループ各社間でリスク情報の共有を行っております（併せて「第2 事業の状況 3事業等のリスク」をご参照ください）。

責任限定契約の概要

当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任限度額は法令の定める最低責任限度額です。

取締役の定数

取締役（監査等委員である取締役を除く。）は7名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款で定めております。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議については、累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役会で決議することができる株主総会決議事項

a. 自己の株式の取得

当社は、自己株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって市場取引等により、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

b. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率11.1%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長執行役員	常盤 和明	1960年10月 8 日生	1983年 3月 当社に入社 2002年 4月 RIMTEC CORPORATION 営業部長 2007年 1月 RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 取締役社長 2011年10月 当社コンパウンド事業部副事業部長兼コンパウンド営業部長 2013年 4月 当社経営企画室副室長 2013年 6月 当社取締役経営企画室長 2016年 4月 当社代表取締役 社長執行役員(現任)	(注) 3	55,900
代表取締役 専務執行役員 管理本部長	入江 淳二	1958年 7月27日生	1981年 4月 (株)富士銀行(現 (株)みずほ銀行) 入行 2009年 4月 (株)みずほ銀行執行役員小舟町支店長 2011年 5月 当社に入社 2011年 6月 当社法務・コンプライアンス室長 2012年 6月 当社取締役法務・コンプライアンス室長 2013年 4月 当社取締役管理本部長兼総務部長 2016年 4月 当社取締役 常務執行役員管理本部長兼経営企画本部長 2017年 1月 当社取締役 常務執行役員管理本部長兼経営企画本部長兼総務部長 2017年 4月 当社取締役 常務執行役員管理本部長兼総務部長 2017年10月 当社取締役 常務執行役員管理本部長 2019年 4月 当社取締役 専務執行役員管理本部長兼経営企画本部長 2020年 4月 当社取締役 専務執行役員管理本部長 2020年 6月 当社代表取締役 専務執行役員管理本部長 2022年 4月 当社代表取締役 専務執行役員管理本部長兼経営企画本部長 2023年 4月 当社代表取締役 専務執行役員管理本部長(現任)	(注) 3	50,300
取締役 常務執行役員 営業本部長	梶山 学之	1962年10月29日生	1985年 3月 当社に入社 2008年 6月 当社名古屋営業所長兼コンパウンド車両開発室長 2010年 3月 当社コンパウンド事業部副事業部長 2011年 4月 当社経営企画室部長代理 2011年 9月 RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 取締役社長 2016年 4月 当社執行役員 RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 取締役社長 2017年 4月 当社上席執行役員経営企画本部長 2017年 6月 当社取締役 上席執行役員経営企画本部長 2019年 4月 当社取締役 常務執行役員営業本部長(現任)	(注) 3	35,800

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 上席執行役員 技術本部長	杉野 等	1960年4月16日生	1983年3月 2009年4月 2014年1月 2016年4月 2019年4月 2020年4月 2020年6月 2021年4月 2022年4月 2023年4月	当社に入社 当社材料開発センター第3開発室長 当社技術本部副本部長兼研究開発センター長兼第1開発室長 当社執行役員技術本部副本部長兼研究開発センター長兼第3開発室長 当社執行役員技術本部長兼研究開発センター長 当社執行役員技術本部長兼製造本部管掌兼研究開発センター長 当社取締役 執行役員技術本部長兼製造本部管掌兼研究開発センター長 当社取締役 執行役員技術本部長兼研究開発センター長 当社取締役 上席執行役員技術本部長兼研究開発センター長 当社取締役 上席執行役員技術本部長(現任)	(注)3	10,500
取締役 (常勤監査等委員)	小泉 真人	1959年10月24日生	1997年10月 2006年4月 2008年6月 2010年4月 2012年9月 2016年1月 2016年4月 2017年1月 2018年4月 2018年6月	当社に入社 当社法務室長 当社経営企画室長 当社経理部長 当社システム開発部長 当社業務管理室長 当社執行役員業務管理室長 当社執行役員業務管理室長兼システム開発部長 当社営業本部付 当社取締役(常勤監査等委員)(現任)	(注)4	18,700
取締役 (監査等委員)	早川 貴之	1954年2月16日生	1972年4月 2006年4月 2008年4月 2009年5月 2010年6月 2013年6月 2016年6月 2017年5月 2017年6月 2019年5月 2020年6月	(株)太陽銀行(現(株)三井住友銀行)入行 (株)三井住友銀行執行役員東日本第3法人営業本部長 (株)三井住友銀行執行役員東京東法人営業本部長(2009年4月退任) 銀泉(株)専務執行役員(2010年5月退任) (株)陽栄ホールディング代表取締役社長(2017年6月退任)兼(株)陽栄代表取締役社長(2017年6月退任) 当社社外監査役 当社社外取締役(監査等委員)(現任) (株)ティーケーピー社外取締役 東陽興産(株)社外取締役(2021年6月退任) (株)ティーケーピー監査役(現任) (株)共立メンテナンス社外取締役(現任)	(注)4	14,600

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員)	中村 重治	1953年9月17日生	1976年4月 2005年6月 2006年6月 2008年6月 2012年4月 2013年6月 2014年4月 2014年6月 2015年6月 2016年6月 2018年6月	(株)埼玉銀行(現 (株)りそな銀行)入行 (株)りそな銀行常務執行役員総合資金部担当 (株)りそな銀行取締役兼専務執行役員総合資金部担当兼コーポレートガバナンス室担当 (株)りそな銀行代表取締役副社長兼執行役員人材サービス部担当兼コーポレートガバナンス事務局担当(2012年3月退任) りそな総合研究所(株)代表取締役社長 トーヨーカネツ(株)社外監査役 りそな総合研究所(株)顧問(2014年6月退任) (株)エフテック社外監査役(2022年6月退任) 当社社外監査役 トーヨーカネツ(株)社外取締役(監査等委員)(現任) 当社社外取締役(監査等委員)(現任) (株)商工組合中央金庫社外取締役(現任)	(注)4	6,300
取締役 (監査等委員)	江原 茂	1958年12月18日生	1981年4月 2011年4月 2013年4月 2013年6月 2014年9月 2016年4月 2016年11月 2017年4月 2018年4月 2018年6月 2022年6月	安田火災海上保険(株)入社 (株)損害保険ジャパン執行役員企業商品業務部長 同社取締役常務執行役員兼日本興亜損害保険(株)常務執行役員兼NK S Jホールディングス(株)執行役員 NK S Jホールディングス(株)取締役執行役員 損害保険ジャパン日本興亜(株)取締役常務執行役員兼損保ジャパン日本興亜ホールディングス(株)取締役常務執行役員 損害保険ジャパン日本興亜(株)取締役専務執行役員兼損保ジャパン日本興亜ホールディングス(株)取締役専務執行役員 S O M P Oホールディングス(株)代表取締役専務執行役員 同社海外保険事業オーナー代表取締役専務執行役員 損害保険ジャパン日本興亜(株)副社長執行役員(2018年6月退任)兼S O M P Oホールディングス(株)取締役副社長執行役員(2018年6月退任) 損害保険料率算出機構専務理事(2022年6月退任) 当社社外取締役(監査等委員)(現任) (注)1. 安田火災海上保険(株)、(株)損害保険ジャパン、日本興亜損害保険(株)及び損害保険ジャパン日本興亜(株)は、現在の損害保険ジャパン(株)であります。 2. NK S Jホールディングス(株)及び損保ジャパン日本興亜ホールディングス(株)は、現在のS O M P Oホールディングス(株)であります。	(注)4	700

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員)	末村 あおぎ	1959年12月10日生	1992年10月	朝日新和会計社(現 有限責任あずさ監査法人)入所	(注) 4	700
			1996年 4月	公認会計士登録		
			1999年 8月	(株)ゴールドクレスト入社		
			2002年 1月	住友商事フィナンシャルマネジメント(株)入社		
			2004年11月	監査法人トーマツ(現 有限責任監査法人トーマツ)入所		
			2008年 6月	同監査法人社員(現 パートナー)		
			2022年 1月	末村あおぎ公認会計士事務所設立(現任)		
			2022年 6月	当社社外取締役(監査等委員)(現任)		
			2023年 3月	新日本電工(株)社外監査役(現任)		
計						193,500

- (注) 1. 当社は、監査等委員会設置会社であります。
2. 取締役早川貴之、中村重治、江原茂及び末村あおぎは、社外取締役であります。
3. 2023年 6月16日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 2022年 6月17日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

取締役会のスキル・マトリックス

氏名	役職	スキル								
		企業経営/ 経営戦略	営業/ マーケティング	グローバル 経験	研究開発/ 製造	財務/ 会計	法務/ リスクマネジメント	人事/ 労務/ 人材開発	ESG/ サステナビリティ	DX/IT
常盤 和明	代表取締役 社長執行役員	○	○	○	○				○	
入江 淳二	代表取締役 専務執行役員	○				○	○	○	○	○
梶山 学之	取締役 常務執行役員	○	○	○	○				○	
杉野 等	取締役 上席執行役員				○					○
小泉 真人	取締役 常勤監査等委員	○				○	○		○	○
早川 貴之	社外取締役 監査等委員 (筆頭・独立)	○				○	○	○		
中村 重治	社外取締役 監査等委員 (独立)	○		○		○	○	○		
江原 茂	社外取締役 監査等委員 (独立)	○		○		○	○	○		
末村あおぎ	社外取締役 監査等委員 (独立)					○	○	○		

社外取締役の状況

当社の社外取締役は4名（うち監査等委員である社外取締役4名）であります。

社外取締役早川貴之は、大手都市銀行における長年の勤務経験を通じ、財務・会計に関する高度な知識と企業経営に関する幅広い知識を有しており、また各会社の役員経験で培われた経営に対する高い見識を有しております。2013年6月より当社の社外監査役として、また2016年6月より当社の監査等委員である社外取締役として、経営に対し多岐にわたる客観的な監査と助言を行っております。引き続き当社グループの経営に対する監査・監督に貢献することが期待されることから、監査等委員である社外取締役に選任しております。同氏は、当社の取引先金融機関である株式会社三井住友銀行の出身者ですが、2009年4月に退任しており、同行の意思に影響される立場にはありません。当社は複数の金融機関と取引をしており、当社と同行との預金・借入取引は、一般的に公正妥当な取引関係であります。また、同行に対する借入依存度は突出しておらず、当社は、同氏が独立性を有すると判断しており、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

社外取締役中村重治は、大手都市銀行においてリスク統括やコーポレートガバナンス担当として長年の経験を有しており、また各会社の役員経験で培われた経営に対する高い見識を有しております。2014年6月より当社の社外監査役として、また2016年6月より当社の監査等委員である社外取締役として、経営に対し多岐にわたる客観的な監査と助言を行っております。引き続き当社グループの経営に対する監査・監督に貢献することが期待されることから、監査等委員である社外取締役に選任しております。同氏は、当社の取引先金融機関である株式会社りそな銀行の出身者ですが、2012年3月に退任しており、同行の意思に影響される立場にはありません。当社は複数の金融機関と取引をしており、当社と同行との預金・借入取引は、一般的に公正妥当な取引関係であります。また、同行に対する借入依存度は突出しておらず、当社は、同氏が独立性を有すると判断しており、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

社外取締役江原茂は、損害保険会社の勤務経験及び役員経験を通じ、様々な業態、業種の企業との係わりによって得られた経営に対する高い見識を有しております。また海外における豊富な業務経験から、グローバルな企業経営に対しても幅広い知見を有しております。これらの知識と経験を活かすことにより、今後、社外取締役として当社グループの経営に対する監査・監督に貢献することが期待されることから、監査等委員である社外取締役に選任しております。同氏は、当社の取引先である損害保険ジャパン日本興亜株式会社（現 損害保険ジャパン株式会社）の出身者ですが、2018年6月に退任しており、同社の意思に影響される立場にはありません。当社は、同社との間で損害保険契約を締結しておりますが、取引額は僅少であります。当社は同氏が独立性を有すると判断しており、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

社外取締役末村あおぎは、大手監査法人のパートナーとして上場企業の法定監査・内部統制システム構築支援等の業務に従事し、また大手企業においても連結決算業務及びM & Aの会計処理等を経験されております。公認会計士として企業会計及び経営に対する幅広い知識と経験を有しており、また、女性の視点からも今後、社外取締役として当社グループの経営に対する監査・監督に貢献することが期待されることから、監査等委員である社外取締役に選任しております。同氏は、直接会社経営に関与したことはありませんが、上記の理由に基づき、監査等委員である社外取締役としての職務を適切に遂行することができるものと判断しております。当社は、同氏が独立性を有すると判断しており、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

なお、当社では、社外取締役の選任にあたり、当社で定める独立性基準をみだし、かつ、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に寄与するために経営に対する積極的な助言、経営全般の監督、利益相反の監督を行うとともに、ステークホルダーの意見を取締役に適切に反映させる役割を担うことができる者を選任しております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、社外取締役4名を含む5名で構成され、常勤の監査等委員を選定することにより、社内での迅速な情報収集と社外取締役との密な情報共有を可能としております。当事業年度に開催された監査等委員会は、16回となります。また、監査等委員会の直轄組織として監査部を設置し、必要に応じて合同で国内外の監査を実施することにより、内部統制システムを利用した組織的かつ実効的な監査を実施できる体制を整えております。なお、個々の監査等委員の監査等委員会の出席状況については次のとおりであります。

役職	氏名	出席状況
取締役 (常勤監査等委員)	小泉 真人	16/16回 (100%)
取締役 (監査等委員)	早川 貴之	16/16回 (100%)
取締役 (監査等委員)	中村 重治	16/16回 (100%)
取締役 (監査等委員)	江原 茂 (注)	12/12回 (100%)
取締役 (監査等委員)	末村あおぎ (注)	12/12回 (100%)

(注) 2022年6月17日の就任以降における出席状況を記載しております。

監査等委員会における当事業年度の重点監査項目及び具体的な検討事項は、1) 代表取締役等の業務執行者をはじめとする取締役の職務執行状況、2) 当事業年度の経営方針への取り組み等の状況、3) 内部統制システムの整備及び運用状況、4) 子会社の棚卸資産の管理状況を含めた監査の強化、であります。

監査等委員は、電話回線又はインターネット等を経由した手段も活用しながら、取締役会、その他経営会議等の重要な会議に出席するほか、重要な決裁書類を閲覧するなど取締役の職務執行について厳正な監視を行っております。また、会計監査人から監査計画の説明・監査状況の聴取・監査結果の報告を受け、「監査上の主要な検討事項」に関する協議を行うとともに、半期毎に監査等委員会、会計監査人、監査部の3組織による意見交換会議を行うなど、緊密な連携を図っております。

内部監査の状況

当社の内部監査部門である監査部は3名で構成され、年度監査計画に従い、国内外の監査を実施することにより、全社的かつ実効性のある内部統制システムが構築及び運用されていることを確認しております。監査部を監査等委員会の直轄組織と位置付けており、内部監査状況について監査等委員会に報告するとともに経営会議及び取締役会に報告し、また代表取締役 社長執行役員に対しても毎月定期的に報告を行うなど、実効的なデュアルレポートラインを構築しております。

加えて、監査部と監査等委員会は必要に応じて合同で国内外の監査を実施しているほか、半期毎に監査等委員会、会計監査人、監査部の3組織による意見交換会議を行うなど、緊密な連携を図っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 継続監査期間

62年間

業務執行社員のローテーションに関しては適切に実施されており、原則として連続して7会計期間を超えて監査業務に関与していません。

なお、筆頭業務執行社員については、連続して5会計期間を超えて監査業務に関与していません。

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 井上 秀之

指定有限責任社員 業務執行社員 杉本 義浩

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 5名、その他 23名

e. 監査法人の選定方針と理由

監査法人の選定に際しては、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を参考とし、監査法人の品質管理体制、独立性、専門性、監査実績などにより総合的に判断しております。

f. 監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、監査法人から品質管理体制、独立性や専門性、監査計画、監査結果の概要等の報告を受けるとともに、関係部署へのヒアリング、これまでの会計監査の実績等を踏まえて、適正な監査が可能であると評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	53,685		54,700	
連結子会社				
計	53,685		54,700	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(Ernst & Young)に対する報酬(a.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社				1,648
連結子会社	17,351	2,108	20,522	2,100
計	17,351	2,108	20,522	3,748

注) 連結子会社における非監査業務の内容は、税務コンサルティング業務等であります。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、当該監査法人の監査報酬の改定依頼書に基づき、監査業務、監査日数、当社の規模と公表されている監査報酬等を勘案の上、上申書により決定することとしております。

手続きとしましては、監査等委員会に上申書を提出し、監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、監査の実施状況、報酬見積りの算出根拠などを確認し、検討した結果、「会計監査人の報酬に関する同意書」を代表取締役 社長執行役員に提出することとしております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、監査の実施状況、報酬見積りの算出根拠などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬(賞与)		固定株式給付	
		基本報酬	金銭	株式給付		
取締役(監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	199,974	116,241	54,181	14,334	15,217	5
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く)	17,540	16,050	-	-	1,490	1
社外取締役(監査等委員)	36,386	33,300	-	-	3,086	5

- (注) 1. 取締役(監査等委員を除く)の報酬限度額は、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会において、年額250百万円以内(取締役兼務執行役員の執行役員としての職務に対する報酬額も含む。)と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の取締役(監査等委員を除く)の員数は、4名であります。なお、これに対応する当事業年度に係る取締役(監査等委員を除く)の報酬等の額は、170,422千円(基本報酬116,241千円、賞与(金銭)54,181千円)であります。
2. 取締役(監査等委員)の報酬限度額は、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会において、年額60百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の取締役(監査等委員)の員数は、4名であります。なお、これに対応する当事業年度に係る取締役(監査等委員)の報酬等の額は、49,350千円(取締役(監査等委員)(社外取締役を除く)の基本報酬16,050千円、社外取締役(監査等委員)の基本報酬33,300千円)であります。
3. 上記1.2.とは別枠で、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会において、株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」の導入を決議いただき、2021年6月18日開催の第92回定時株主総会において、その一部改定を決議いただいております。同株式報酬制度においては、2017年3月末日で終了する事業年度から3事業年度ごとに当該3事業年度に対応する株式取得に必要な資金として210百万円(うち、取締役(監査等委員を除く)分として150百万円、取締役(監査等委員)分として18百万円、取締役を兼務しない執行役員分として42百万円)を上限として金銭を拠出し、信託を設定することとしております。2021年6月18日開催の第92回定時株主総会終結時点の取締役(監査等委員を除く)の員数は5名、取締役(監査等委員)の員数は4名であります。
4. 取締役(監査等委員を除く)(社外取締役を除く)の報酬等の総額には、取締役兼務執行役員の執行役員としての職務に対する報酬額109,800千円が含まれております。
5. 取締役(監査等委員を除く)(社外取締役を除く)の報酬等の総額には、当事業年度に計上した株式給付信託(BBT)の引当金繰入額29,551千円及び役員賞与引当金繰入額54,181千円が含まれております。
6. 取締役(監査等委員)(社外取締役を除く)の報酬等の総額には、当事業年度に計上した株式給付信託(BBT)の引当金繰入額1,490千円が含まれております。
7. 社外取締役(監査等委員)の報酬等の総額には、当事業年度に計上した株式給付信託(BBT)の引当金繰入額3,086千円が含まれております。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

a. 決定方針の決定の方法

取締役の個人別の報酬等の内容についての決定方針は、2021年2月22日開催の取締役会において決定し、2022年2月21日開催の取締役会において一部改定の決定をしております。それらの決定に際しては、取締役会が事前にその過半数を独立社外取締役で組織する報酬委員会に諮問し、その答申結果を尊重しております。

b. 決定方針の内容の概要

1) 基本方針

取締役(監査等委員である取締役を除く。)の報酬は、各事業年度の業績の向上及び中長期的な企業価値向上を動機づけ、また株主とも価値を共有できる報酬制度とし、役位及び職責に応じた適切な報酬水準とします。それらの決定に際しては、客観性及び透明性を確保するため、過半数を独立社外取締役で組織する報酬委員会の意見を尊重します。

具体的には、取締役(監査等委員である取締役を除く。)の報酬は、執行給及び監督給で構成し、執

行給は、固定額の基本報酬（金銭）及び業績連動報酬としての賞与（金銭及び株式給付）とし、監督給は、固定額の基本報酬（金銭）及び固定額の株式給付とします。

- 2) 基本報酬の個人別の報酬等の額の決定に関する方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の執行給のうちの基本報酬は、金銭による固定報酬とし、役位及びランク（評価）に応じて定めた基本報酬基準に基づき、前事業年度の会社業績及び所管する部門業績、当事業年度の職責等の状況を加味した上で、当事業年度における個人別の報酬額を決定し、毎月支給します。

また、監督給のうちの基本報酬は、金銭による固定報酬とし、代表権の有無に応じて個人別の報酬額を決定し、毎月支給します。

- 3) 業績連動報酬等の内容及び額又は数の算定方法の決定に関する方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の業績連動報酬としての賞与（金銭及び株式給付）は、個人別の執行給のうちの基本報酬（金銭）をもとに設定した基本賞与額に当該事業年度における下記業績連動指標の達成率を加味して算出し、役位に応じて一定割合を株式給付とします。なお、毎年7月に支給します。

業績連動指標は、会社業績評価指標及び個人業績評価指標で構成します。ただし、常務以上の役付執行役員を兼務する取締役については、会社業績評価指標のみで構成します。

会社業績評価指標は、企業価値向上及び株主価値向上に係る会社業績（連結・単体）達成率を報酬に連動させるため、連結営業利益・連結経常利益・連結ROE、単体業績連動指標として単体営業利益・単体経常利益を用いて算出し、個人業績評価指標は、所管する部門業績等を用いて算出します。

- 4) 非金銭報酬等の内容及び額又は数の算定方法の決定に関する方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の非金銭報酬である株式給付（執行給のうちの業績連動報酬及び監督給）は、株式給付信託（BBT）とします。報酬額に応じたポイントを毎年7月に付与し、ポイント数に応じた数の株式給付を退任時に行います。

業績連動報酬としての株式給付は、上記3)に記載のとおり決定し、監督給としての株式給付は、固定額とし、代表権の有無に応じて決定します。

- 5) 金銭報酬の額、業績連動報酬等の額又は非金銭報酬等の額の取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の業績連動報酬を除く金銭報酬（執行給のうちの基本報酬及び監督給のうちの基本報酬）と業績連動報酬としての賞与（金銭及び株式給付）の額の個人別の割合は、業績連動報酬の業績達成率を100%と仮定した場合、概ね7：3とします。また、業績連動報酬を除く金銭報酬（執行給のうちの基本報酬及び監督給のうちの基本報酬）の額と株式報酬（固定額の株式給付及び業績連動報酬の株式給付）の額の個人別の割合は、業績連動報酬の業績達成率を100%と仮定した場合、概ね8：2とします。

なお、当該報酬の額の個人別の割合は、報酬水準等の変化を踏まえ、報酬委員会に諮問した上で取締役会において適宜見直しを行います。

- 6) 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬制度及び個人別の報酬等の内容については、取締役会が事前にその過半数を独立社外取締役で組織する報酬委員会に諮問した上で、その答申結果を尊重して決定します。

- c. 当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等の内容の決定にあたっては、報酬委員会が原案について決定方針との整合性を含め総合的に検討を行っております。取締役会としても、その答申内容を尊重し、決定方針に沿うものであると判断しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外を目的として保有する株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

政策保有株式については、グローバルに企業価値を向上させるための中長期的視点に立って、保有目的が適切か、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等につき、毎年取締役会において具体的に精査し、保有することが当社グループの中長期的企業価値向上に資すると判断するものについては保有を継続いたしますが、保有することが適切でないと判断するものについては、市場動向等を勘案の上、全部又は一部の処分を検討し、保有を縮減する方針であります。

当事業年度の検証は2022年11月に実施し、個別の銘柄ごとに保有目的の適切性のほか、取引実績等も加味した便益やリスクが資本コストに見合っているかを検証し、保有することが適切でないと判断した一部の銘柄につき、処分を検討することいたしました。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	5	126,958
非上場株式以外の株式	29	8,620,108

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	2	42,616

c．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の 株式の保有 の有無
	株式数(株) 貸借対照表計上額 (千円)	株式数(株) 貸借対照表計上額 (千円)		
信越化学工業株式会 社 (注) 4	1,058,805	211,761	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	4,526,391	3,978,989		
インフロニア・ホールディングス株式会社	450,000	450,000	当社グループの工場等の建設工事等での施工実績があり、増設工事取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 2
	459,900	468,900		

株式会社みずほフィナンシャルグループ	224,995	224,995	主要金融機関として、取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 2
	422,540	352,567		
三井物産株式会社	135,000	135,000	海外事業におけるパートナーであり、協業を円滑に進めるために保有しております。	有
	555,660	449,280		
三菱商事株式会社	80,000	80,000	海外事業におけるパートナーであり、協業を円滑に進めるために保有しております。	有
	380,080	368,080		
株式会社クラレ	192,000	192,000	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	233,664	202,944		
株式会社ADEKA	100,000	100,000	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	225,800	270,400		
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ	389,058	389,058	主要金融機関として、取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 2
	189,860	178,188		
東ソー株式会社	71,500	71,500	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	128,485	129,701		
三井化学株式会社	40,792	40,792	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 3
	139,100	126,047		
丸紅株式会社	145,000	145,000	海外事業におけるパートナーであり、協業を円滑に進めるために保有しております。	有
	260,347	206,770		
伊藤忠商事株式会社	31,500	31,500	海外事業におけるパートナーであり、協業を円滑に進めるために保有しております。	有
	135,481	130,536		
凸版印刷株式会社	58,917	58,917	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	157,013	127,614		
理研ビタミン株式会社	60,000	60,000	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	115,380	100,620		
大日精化工業株式会社	32,000	32,000	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	57,056	65,920		

SOMPOホールディングス株式会社	17,750	17,750	当社グループ全体での損害保険の契約先であり、保険取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 2
	93,223	95,512		
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	15,613	15,613	主要金融機関として、取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 2
	82,717	60,999		
大日本印刷株式会社	26,617	26,617	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	98,615	76,603		
JMACS株式会社	101,995	101,995	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	52,935	44,163		
株式会社カネカ	10,000	10,000	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	34,500	35,450		
稲畑産業株式会社	19,000	19,000	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	51,053	39,197		
DIC株式会社	10,026	10,026	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	23,861	25,135		
共同印刷株式会社	8,500	8,500	原材料等の仕入先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	23,375	23,468		
ニチモウ株式会社	11,000	11,000	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	有
	34,815	31,790		
株式会社りそなホールディングス	39,250	39,250	主要金融機関として、取引の円滑化を図るために保有しております。	無 (注) 2
	25,100	20,570		
リンテック株式会社	1,728	1,728	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	3,741	4,200		
株式会社プロテリアル (注) 5	-	2,106	当事業年度における a. の検証の結果、全株式を売却しており、保有する株式はありません。	無
	-	4,298		
株式会社三ツ星	220	220	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	1,564	755		

株式会社トーホー	3,200	3,200	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	7,052	3,648		
株式会社高速	50,120	50,120	製品の販売先であり、営業取引の円滑化を図るために保有しております。	無
	100,791	80,091		
株式会社フジ	-	18,900	当事業年度における a. の検証の結果、全株式を売却しており、保有する株式はありません。	無
	-	43,659		

- (注) 1 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は「a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載の方法により検証しております。
- 2 インフロニア・ホールディングス株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ、SOMPOホールディングス株式会社、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、株式会社りそなホールディングスは、当社の株式を保有しておりませんが、同子会社が当社の株式を保有しております。
- 3 三井化学株式会社は、当社の株式を保有しておりませんが、同社退職給付信託口として株式会社日本カストディ銀行が当社の株式を保有しております。
- 4 信越化学工業株式会社は、2023年3月31日付で、普通株式1株につき5株の割合で株式分割が実施されたため、当事業年度は分割後の株式数で記載しております。
- 5 日立金属株式会社は、2023年1月4日付で株式会社プロテリアルに社名変更しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、会計基準の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、また、会計専門誌等の購読やメディアの利用及び監査法人等が主催する研修会への参加により、情報収集を積極的に行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,702,615	23,481,932
受取手形	2 1,785,477	2 1,306,391
売掛金	21,413,866	22,180,311
電子記録債権	2 3,145,045	2 5,008,505
商品及び製品	9,159,195	9,678,717
仕掛品	621,167	961,462
原材料及び貯蔵品	7,623,661	8,094,251
その他	751,067	1,040,115
貸倒引当金	83,600	83,749
流動資産合計	65,118,496	71,667,937
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,001,105	28,065,624
減価償却累計額	16,085,506	17,600,981
建物及び構築物(純額)	9,915,598	10,464,642
機械装置及び運搬具	53,866,872	57,404,576
減価償却累計額	45,963,974	49,441,055
機械装置及び運搬具(純額)	7,902,898	7,963,520
土地	6,331,829	6,439,554
リース資産	145,713	152,329
減価償却累計額	105,394	95,309
リース資産(純額)	40,319	57,020
建設仮勘定	364,622	1,512,427
その他	5,876,517	6,168,649
減価償却累計額	5,294,914	5,528,108
その他(純額)	581,602	640,541
有形固定資産合計	25,136,870	27,077,707
無形固定資産		
のれん	7,275	5,820
リース資産	588	5,173
その他	2,098,602	2,275,719
無形固定資産合計	2,106,466	2,286,713
投資その他の資産		
投資有価証券	7,905,371	8,777,528
長期貸付金	2,526	1,905
退職給付に係る資産	962,148	811,947
繰延税金資産	428,348	441,121
その他	983,575	940,216
貸倒引当金	2,320	2,320
投資その他の資産合計	10,279,650	10,970,399
固定資産合計	37,522,987	40,334,820
資産合計	102,641,484	112,002,757

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 20,075,715	2 21,193,377
電子記録債務	521,101	467,511
短期借入金	1 6,769,296	1 7,718,267
1年内返済予定の長期借入金	488,174	552,457
リース債務	14,444	16,456
未払法人税等	480,704	640,838
賞与引当金	726,155	807,030
役員賞与引当金	97,774	92,721
その他	2,235,955	2,387,457
流動負債合計	31,409,322	33,876,116
固定負債		
長期借入金	2,566,512	2,260,070
リース債務	20,774	30,639
繰延税金負債	1,469,124	1,877,146
役員株式給付引当金	171,386	200,788
退職給付に係る負債	1,136,730	1,157,941
資産除去債務	330,880	335,742
その他	88,252	99,078
固定負債合計	5,783,661	5,961,407
負債合計	37,192,984	39,837,524
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,514,018	8,514,018
資本剰余金	6,597,580	6,597,580
利益剰余金	38,200,822	41,463,280
自己株式	466,193	406,095
株主資本合計	52,846,228	56,168,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,255,441	4,904,961
為替換算調整勘定	563,069	2,159,985
退職給付に係る調整累計額	97,331	37,713
その他の包括利益累計額合計	4,915,842	7,027,233
非支配株主持分	7,686,429	8,969,215
純資産合計	65,448,500	72,165,232
負債純資産合計	102,641,484	112,002,757

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
売上高	109,923,705	123,497,991
売上原価	1, 3 91,008,539	1, 3 103,146,236
売上総利益	18,915,166	20,351,754
販売費及び一般管理費	2, 3 12,623,123	2, 3 12,845,492
営業利益	6,292,043	7,506,262
営業外収益		
受取利息	25,510	38,474
受取配当金	196,656	228,727
為替差益	344,491	228,486
その他	223,098	190,376
営業外収益合計	789,757	686,065
営業外費用		
支払利息	109,206	169,759
その他	83,567	57,664
営業外費用合計	192,773	227,424
経常利益	6,889,026	7,964,903
特別利益		
固定資産売却益	4 1,102	4 2,066
投資有価証券売却益	106,010	8,720
特別利益合計	107,113	10,786
特別損失		
固定資産売却損	5 894	5 32
固定資産除却損	6 9,394	6 13,041
減損損失	7 319,144	-
在外子会社における送金詐欺損失	187,259	-
投資有価証券売却損	3,409	-
特別損失合計	520,102	13,074
税金等調整前当期純利益	6,476,038	7,962,615
法人税、住民税及び事業税	1,931,105	1,899,962
法人税等調整額	83,716	144,403
法人税等合計	1,847,389	2,044,365
当期純利益	4,628,648	5,918,249
非支配株主に帰属する当期純利益	687,230	1,360,726
親会社株主に帰属する当期純利益	3,941,418	4,557,523

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
当期純利益	4,628,648	5,918,249
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	255,628	649,165
為替換算調整勘定	1,521,732	2,500,038
退職給付に係る調整額	51,309	135,045
その他の包括利益合計	1 1,828,670	1 3,014,159
包括利益	6,457,319	8,932,409
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,272,022	6,668,914
非支配株主に係る包括利益	1,185,297	2,263,495

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	8,514,018	6,597,580	35,561,518	517,035	50,156,082
会計方針の変更による累積的影響額			11,984		11,984
会計方針の変更を反映した当期首残高	8,514,018	6,597,580	35,549,533	517,035	50,144,097
当期変動額					
剰余金の配当			1,282,275		1,282,275
親会社株主に帰属する当期純利益			3,941,418		3,941,418
自己株式の取得				49	49
自己株式の処分				50,890	50,890
その他			7,853		7,853
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	2,651,289	50,841	2,702,131
当期末残高	8,514,018	6,597,580	38,200,822	466,193	52,846,228

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	3,999,879	460,662	46,021	3,585,238	7,335,533	61,076,854
会計方針の変更による累積的影響額						11,984
会計方針の変更を反映した当期首残高	3,999,879	460,662	46,021	3,585,238	7,335,533	61,064,869
当期変動額						
剰余金の配当						1,282,275
親会社株主に帰属する当期純利益						3,941,418
自己株式の取得						49
自己株式の処分						50,890
その他						7,853
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	255,562	1,023,732	51,309	1,330,603	350,895	1,681,499
当期変動額合計	255,562	1,023,732	51,309	1,330,603	350,895	4,383,630
当期末残高	4,255,441	563,069	97,331	4,915,842	7,686,429	65,448,500

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	8,514,018	6,597,580	38,200,822	466,193	52,846,228
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	8,514,018	6,597,580	38,200,822	466,193	52,846,228
当期変動額					
剰余金の配当			1,282,272		1,282,272
親会社株主に帰属する当期純利益			4,557,523		4,557,523
自己株式の取得				94	94
自己株式の処分				60,193	60,193
その他			12,794		12,794
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	3,262,457	60,098	3,322,555
当期末残高	8,514,018	6,597,580	41,463,280	406,095	56,168,784

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	4,255,441	563,069	97,331	4,915,842	7,686,429	65,448,500
会計方針の変更による累積的影響額						-
会計方針の変更を反映した当期首残高	4,255,441	563,069	97,331	4,915,842	7,686,429	65,448,500
当期変動額						
剰余金の配当						1,282,272
親会社株主に帰属する当期純利益						4,557,523
自己株式の取得						94
自己株式の処分						60,193
その他						12,794
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	649,520	1,596,915	135,045	2,111,390	1,282,786	3,394,176
当期変動額合計	649,520	1,596,915	135,045	2,111,390	1,282,786	6,716,732
当期末残高	4,904,961	2,159,985	37,713	7,027,233	8,969,215	72,165,232

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,476,038	7,962,615
減価償却費	3,506,091	3,597,533
減損損失	319,144	-
のれん償却額	140,205	1,455
賞与引当金の増減額(は減少)	2,328	68,907
役員賞与引当金の増減額(は減少)	13,065	5,053
貸倒引当金の増減額(は減少)	548	1,119
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	28,458	105,953
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	30,745	29,402
受取利息及び受取配当金	222,166	267,202
支払利息	109,206	169,759
投資有価証券売却損益(は益)	102,601	8,720
有形固定資産売却損益(は益)	208	2,033
固定資産除却損	9,394	13,041
売上債権の増減額(は増加)	2,465,663	1,117,158
棚卸資産の増減額(は増加)	4,575,823	128,164
仕入債務の増減額(は減少)	3,962,068	94,642
未払消費税等の増減額(は減少)	263,266	75,836
その他	57,954	266,112
小計	6,846,939	10,113,914
利息及び配当金の受取額	222,638	267,547
利息の支払額	114,103	160,236
法人税等の支払額	2,382,668	1,697,103
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,572,806	8,524,122
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	24,156	25,699
定期預金の払戻による収入	24,155	24,156
有形固定資産の取得による支出	2,280,827	3,675,011
有形固定資産の売却による収入	1,558	3,199
無形固定資産の取得による支出	455,439	311,637
投資有価証券の取得による支出	716	-
投資有価証券の売却による収入	317,674	46,880
貸付金の回収による収入	12,741	518
その他	33,197	17,512
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,438,208	3,955,106

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	338,306	557,663
長期借入金の返済による支出	474,724	617,552
リース債務の返済による支出	20,613	18,924
自己株式の取得による支出	49	94
配当金の支払額	1,281,289	1,281,184
非支配株主への配当金の支払額	831,034	975,227
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,946,018	2,335,319
現金及び現金同等物に係る換算差額	407,952	543,954
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	403,466	2,777,651
現金及び現金同等物の期首残高	21,080,770	20,677,303
現金及び現金同等物の期末残高	1 20,677,303	1 23,454,955

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 17社

全ての子会社を連結の範囲に含めております。

また、主要な連結子会社名は「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略してあります。

なお、前連結会計年度において連結子会社でありました理元(上海)貿易有限公司は、清算終了に伴い、当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

(2) 非連結子会社はありません。

2 持分法の適用に関する事項

関連会社はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
リケンケーブルテクノロジー株式会社	12月31日
株式会社協栄樹脂製作所	12月31日
リケンテクノスインターナショナル株式会社	12月31日
リケンケミカルプロダクツ株式会社	12月31日
株式会社アイエムアイ	12月31日
RIKEN(THAILAND)CO.,LTD.	12月31日
RIKEN ELASTOMERS(THAILAND)CO.,LTD.	12月31日
PT.RIKEN INDONESIA	12月31日
上海理研塑料有限公司	12月31日
理研食品包装(江蘇)有限公司	12月31日
RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION	12月31日
RIKEN VIETNAM CO.,LTD.	12月31日
RIKEN TECHNOS INDIA PVT. LTD.	12月31日
RIKEN U.S.A.CORPORATION	12月31日
RIKEN AMERICAS CORPORATION	12月31日
RIMTEC CORPORATION	12月31日
RIKEN ELASTOMERS CORPORATION	12月31日

連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

a. 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

b. その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

棚卸資産

当社及び国内連結子会社は、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。又、在外連結子会社は、主として総平均法に基づく低価法を採用しております。

デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は、主として定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。又、在外連結子会社は、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～47年

機械装置及び運搬具 4～10年

無形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は、定額法を採用しております。

なお、主として、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

当社及び国内連結子会社は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、主として支給見込額に基づき当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

役員賞与引当金

当社は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び執行役員に支給する賞与の支払に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

役員株式給付引当金

当社は、取締役及び執行役員への当社株式の給付等に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)に基づく定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

製品又は商品の販売に係る収益は、主にコンパウンド製品、フィルム製品、食品包材製品の製造及び販売並びに商品の販売等であり、顧客との販売契約に基づいて製品又は商品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、製品又は商品を引き渡す一時点において、顧客が当該製品又は商品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。ただし、国内販売については、出荷時点で収益を認識しております。また、輸出版売については、顧客と合意した地点に製品が到着した時点で、履行義務が充足されたと判断し収益を認識しております。

なお、商品の販売のうち、当社及び連結子会社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

為替予約を付した外貨建金銭債権債務等について、振当処理を採用しております。また、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

・ヘッジ手段

為替予約取引及び金利スワップ取引

・ヘッジ対象

商品及び製品の輸出入に係る外貨建売掛金、買掛金及び借入金利息

ヘッジ方針

為替予約取引については、外国為替相場変動リスクをヘッジする目的で実需の範囲内においてのみ実施しております。また、将来予想される金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っています。なお、収益確保を目的としたディーリングは実施しないこととしております。

ヘッジ有効性評価の方法

振当処理によっている為替予約取引及び特例処理の要件を満たす金利スワップ取引については、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却は、計上後20年以内でその効果の発現する期間にわたって均等償却することとしております。ただし、金額が僅少な場合は、発生時に一括償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1) 株式給付信託(BBT)

当社は、2016年6月24日開催の第87回定時株主総会決議に基づき、業務執行をする取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び執行役員が、中長期的な業績の向上及び企業価値の増大に貢献する意識を高め、業務執行をしない取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び監査等委員である取締役が、監督または監査を通じた中長期的な企業価値の増大に貢献することを目的として、新たな株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を2016年9月14日より導入しております。

取引の概要

当社グループは、あらかじめ定めた役員株式給付規程に基づき、取締役等(取締役及び執行役員)に対しポイントを付与し、退任時に受益者要件を満たした者に対し、付与されたポイントに相当する当社株式を給付いたします。給付する株式については、あらかじめ当社が拠出した金銭により信託銀行が将来給付分も含めて第三者割当による自己株式を譲受し、信託財産として分別管理しております。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は前連結会計年度末276,412千円、601千株、当連結会計年度末270,072千円、587千株であります。

総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

(2) 株式給付信託(従業員持株会処分型)

当社は、2021年2月22日開催の取締役会の決議により、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

取引の概要

本制度は、「リケンテクノス従業員投資会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブ・プランです。

信託の設定後5年間にわたり持株会が取得する見込みの当社の当社株式を、本制度の受託者である信託銀行が予め一括して取得し、持株会の株式取得に際して当社株式を売却していきます。信託終了時まで、信託銀行が持株会への売却を通じて本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、それを残余財産として受益者適格要件を充足する当社従業員持株会会員に分配します。また当社は、信託銀行が当社株式を取得するための借入に対し保証をしているため、信託終了時において、当社株価の下落により当該株式売却損相当の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は前連結会計年度末189,711千円、372千株、当連結会計年度末135,858千円、266千株であります。

総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当連結会計年度139,722千円

(連結貸借対照表関係)

1. 当座貸越契約及び借入未実行残高

当社及び国内連結子会社は、運転資金の機動的な調達を行うため取引銀行との間に当座貸越契約を締結しております。当連結会計年度末の借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
当座貸越極度額の総額	9,230,000千円	9,130,000千円
借入実行残高	3,665,000	3,865,000
差引額	5,565,000	5,265,000

2. 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
受取手形	37,138千円	45,384千円
電子記録債権	13,760	19,349
支払手形	8,571	9,097

(連結損益計算書関係)

1. 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損益(益は)が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
184,213千円	126,543千円

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
支払運賃	3,868,121千円	3,961,369千円
支払手数料	1,139,141	1,175,573
給料及び賞与	2,724,557	2,712,543
賞与引当金繰入額	207,391	230,743
退職給付費用	209,178	110,058
役員賞与引当金繰入額	90,296	84,843
貸倒引当金繰入額	1,048	119
研究開発費	1,237,196	1,255,142

3. 販売費及び一般管理費及び売上原価に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1,566,063千円	1,631,232千円

4. 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械装置及び運搬具	1,099千円	2,018千円
その他	2	47
計	1,102	2,066

5. 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
機械装置及び運搬具	574千円	- 千円
その他	319	32
計	894	32

6. 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物及び構築物	2,673千円	4,678千円
機械装置及び運搬具	4,960	5,231
その他	1,761	3,132
計	9,394	13,041

7. 減損損失

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

当社グループは以下の資産グループについて、減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失
群馬工場（群馬県太田市）	事業用資産	のれん、機械装置等	319,144千円

当社グループは、他の資産又は資産グループから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位によって（ただし、遊休資産については個別物件ごとに）資産をグルーピングしております。

グルーピングの単位である(ELセグメントにおける)群馬工場においては、事業環境の変化に伴い収益性が低下したことから、減損の兆候があると判断し、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額がその帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失を認識しております。

その内訳は、のれん231,250千円、機械装置及び運搬具76,135千円、その他11,759千円であります。

なお、回収可能価額は、正味売却価額により測定しております。建物及び土地については、不動産鑑定評価等合理的に算定された評価額に基づき評価し、それ以外の資産については、対象資産の処分可能性を考慮し、実質的な価値がないと判断されたものについては、正味売却価額をゼロとして評価しております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	460,837千円	936,736千円
組替調整額	87,252	8,720
税効果調整前	373,585	928,016
税効果額	117,956	278,850
その他有価証券評価差額金	255,628	649,165
為替換算調整勘定：		
当期発生額	1,521,732	2,500,038
組替調整額	-	-
税効果調整前	1,521,732	2,500,038
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	1,521,732	2,500,038
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	2,185	203,771
組替調整額	71,492	9,125
税効果調整前	73,677	194,645
税効果額	22,368	59,600
退職給付に係る調整額	51,309	135,045
その他の包括利益合計	1,828,670	3,014,159

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	64,113	-	-	64,113
合計	64,113	-	-	64,113
自己株式				
普通株式(注)	1,074	0	101	973
合計	1,074	0	101	973

- (注) 1. 当社は、2016年8月29日開催の取締役会において、「株式給付信託(BBT)」の導入を決議しており、2016年9月14日付で自己株式476千株、2020年3月12日付で自己株式329千株を信託E口へ譲渡しております。なお、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、信託E口が所有する自社の株式がそれぞれ、614千株、601千株含まれております。
2. 当社は、2017年5月24日開催の取締役会の決議により「株式給付信託(従業員持株会処分型)」を導入していましたが、当連結会計年度にて終了し、新たに2021年2月22日開催の取締役会において同制度の再導入を決議しており、2021年3月11日付で自己株式266千株を信託E口へ譲渡しております。なお、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、信託E口が所有する自社の株式がそれぞれ、459千株、372千株含まれております。
3. 普通株式の自己株式の増加0千株は、単元未満株式の買取0千株であります。
4. 普通株式の自己株式の減少101千株は、信託E口から当社従業員持株会への売却87千株、役員の退任に伴う信託E口からの給付13千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月18日 定時株主総会	普通株式	769,365	12	2021年3月31日	2021年6月21日

(注) 配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金12,897千円が含まれております。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年10月29日 取締役会	普通株式	512,909	8	2021年9月30日	2021年11月29日

(注) 配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金8,160千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月17日 定時株主総会	普通株式	705,250	利益剰余金	11	2022年3月31日	2022年6月20日

(注) 配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金10,710千円が含まれております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	64,113	-	-	64,113
合計	64,113	-	-	64,113
自己株式				
普通株式	973	0	119	854
合計	973	0	119	854

- (注) 1. 当社は、2016年8月29日開催の取締役会において、「株式給付信託(BBT)」の導入を決議しており、2016年9月14日付で自己株式476千株、2020年3月12日付で自己株式329千株を信託E口へ譲渡しております。なお、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、信託E口が所有する自社の株式がそれぞれ、601千株、587千株含まれております。
2. 当社は、2017年5月24日開催の取締役会の決議により「株式給付信託(従業員持株会処分型)」を導入していましたが、当連結会計年度にて終了し、新たに2021年2月22日開催の取締役会において同制度の再導入を決議しており、2021年3月11日付で自己株式266千株を信託E口へ譲渡しております。なお、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式数には、信託E口が所有する自社の株式がそれぞれ、372千株、266千株含まれております。
3. 普通株式の自己株式の増加0千株は、単元未満株式の買取0千株であります。
4. 普通株式の自己株式の減少119千株は、信託E口から当社従業員持株会への売却105千株、役員の退任に伴う信託E口からの給付13千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月17日 定時株主総会	普通株式	705,250	11	2022年3月31日	2022年6月20日

(注) 配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金10,710千円が含まれております。

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年10月31日 取締役会	普通株式	577,021	9	2022年9月30日	2022年11月29日

(注) 配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金8,136千円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月16日 定時株主総会	普通株式	1,025,815	利益剰余金	16	2023年3月31日	2023年6月19日

(注) 配当金総額には、信託E口が保有する自社の株式に対する配当金13,668千円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金勘定	20,702,615千円	23,481,932千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	25,312	26,977
現金及び現金同等物	20,677,303	23,454,955

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主にコンパウンド事業における生産設備等であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
1年内	40,155	66,498
1年超	63,710	73,772
合計	103,866	140,270

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは設備投資計画に照らして、主に銀行借入により必要な資金を調達しております。余裕資金に関しては、流動性を確保しつつ、外部格付け等を参考に安全性を最優先とし、リスクの少ない運用を行っております。また、一部短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、実態取引に伴うリスクの回避という目的に限定し、投機的な取引は行わない取組方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金等は、各顧客の信用リスクがあります。外貨建営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形および買掛金は、主に3～5ヶ月以内の支払期日であります。借入金およびファイナンス・リース取引に係るリース債務は主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。運転資金調達目的の借入金も一部あります。これらの借入金は金利変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、借入金に係る金利変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権である受取手形および売掛金に係る顧客の信用リスクについては、与信管理規程等の基準に則って顧客の与信を管理し、定期的な見直しを行い、リスクの軽減を図っております。

現先取引における銘柄の信用リスクは資産運用規程に則り、外部格付け等を参考にし、リスクの少ない運用を行っております。また、連結子会社も当社に準じた管理体制を整備しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

デリバティブ取引については、借入金に係る金利変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券は主に上場株式を長期保有目的で保有しており、四半期毎に時価による評価や発行体(取引先企業)の財務状態の把握を行っております。また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

担当部署において定期的に入出金に関する情報を一元的に収集し、その状況を把握し、適切な資金配分を行ないつつ、必要な流動性を勘案し、手許資金として留保しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2022年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	7,785,037	7,785,037	-
(2) 長期貸付金	2,526	2,526	0
資産計	7,787,563	7,787,563	0
(1) 短期借入金	6,769,296	6,769,296	0
(2) 1年内返済予定の長期借入金	488,174	520,546	32,371
(3) リース債務(流動負債)	14,444	14,444	0
(4) 長期借入金	2,566,512	2,543,446	23,065
(5) リース債務(固定負債)	20,774	20,774	0
負債計	9,859,201	9,868,508	9,306
デリバティブ取引(*3)	-	-	-

(*1) 「現金及び預金」「受取手形」「売掛金」「電子記録債権」「支払手形及び買掛金」「電子記録債務」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度
非上場株式	120,334千円

(*3) 注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

当連結会計年度(2023年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	8,650,570	8,650,570	-
(2) 長期貸付金	1,905	1,905	0
資産計	8,652,476	8,652,476	0
(1) 短期借入金	7,718,267	7,718,267	0
(2) 1年内返済予定の長期借入金	552,457	551,935	522
(3) リース債務(流動負債)	16,456	16,456	0
(4) 長期借入金	2,260,070	2,189,460	70,609
(5) リース債務(固定負債)	30,639	30,639	0
負債計	10,577,890	10,506,759	71,131
デリバティブ取引(*3)	-	-	-

(*1) 「現金及び預金」「受取手形」「売掛金」「電子記録債権」「支払手形及び買掛金」「電子記録債務」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「(1) 投資有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度
非上場株式	126,958千円

(*3) 注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金及び預金	20,696,005	-	-	-
(2) 受取手形	1,785,477	-	-	-
(3) 売掛金	21,413,866	-	-	-
(4) 電子記録債権	3,145,045	-	-	-
(5) 長期貸付金	-	1,693	608	223
合計	47,040,395	1,693	608	223

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金及び預金	23,021,436	-	-	-
(2) 受取手形	1,306,391	-	-	-
(3) 売掛金	22,180,311	-	-	-
(4) 電子記録債権	5,008,505	-	-	-
(5) 長期貸付金	-	1,188	626	90
合計	51,516,645	1,188	626	90

2. 借入金、社債及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
(1) 短期借入金	6,769,296	-	-	-	-	-
(2) 長期借入金	488,174	544,014	532,414	282,373	-	1,207,710
(3) リース債務	14,444	9,825	7,072	3,420	455	-
合計	7,271,915	553,840	539,487	285,793	455	1,207,710

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
(1) 短期借入金	7,718,267	-	-	-	-	-
(2) 長期借入金	552,457	610,506	322,563	-	729,850	597,150
(3) リース債務	16,456	18,986	9,276	1,811	564	-
合計	8,287,181	629,493	331,840	1,811	730,414	597,150

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	7,785,037	-	-	7,785,037
資産計	7,785,037	-	-	7,785,037

当連結会計年度（2023年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	8,650,570	-	-	8,650,570
資産計	8,650,570	-	-	8,650,570

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2022年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	2,526	-	2,526
資産計	-	2,526	-	2,526
短期借入金	-	6,769,296	-	6,769,296
1年内返済予定の長期借入金	-	520,546	-	520,546
リース債務(流動負債)	-	14,444	-	14,444
長期借入金	-	2,543,446	-	2,543,446
リース債務(固定負債)	-	20,774	-	20,774
負債計	-	9,868,508	-	9,868,508

当連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	1,905	-	1,905
資産計	-	1,905	-	1,905
短期借入金	-	7,718,267	-	7,718,267
1年内返済予定の長期借入金	-	551,935	-	551,935
リース債務(流動負債)	-	16,456	-	16,456
長期借入金	-	2,189,460	-	2,189,460
リース債務(固定負債)	-	30,639	-	30,639
負債計	-	10,506,759	-	10,506,759

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期貸付金

長期貸付金の時価は、元利金の合計額と新規貸付を行った場合に想定される利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

短期借入金及びリース債務

これらの時価は、元利金の合計額と同様の新規借入またはリース取引を行った場合に想定される利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。また、変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	7,562,409	1,594,730	5,967,678
小計	7,562,409	1,594,730	5,967,678
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	222,627	276,183	53,555
小計	222,627	276,183	53,555
合計	7,785,037	1,870,914	5,914,122

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額120,334千円)については市場価格がないため、上表には含めておりません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	8,397,812	1,540,154	6,857,657
小計	8,397,812	1,540,154	6,857,657
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	252,758	279,512	26,753
小計	252,758	279,512	26,753
合計	8,650,570	1,819,666	6,830,903

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額126,958千円)については市場価格がないため、上表には含めておりません。

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	317,674	106,010	3,409

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	46,880	8,720	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

該当事項はありません。

(2) 金利関連

前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・ 固定支払	長期借入金	1,008,801	728,826	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・ 固定支払	長期借入金	838,221	525,966	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度を採用しております。確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金または年金を支給します。

退職一時金制度(すべて非積立型制度であります。)では、退職給付として給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。また、2015年5月より退職一時金制度(すべて非積立型制度)には、退職給付信託が設定されております。

一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	5,891,642	6,020,580
勤務費用	396,831	249,207
利息費用	35,778	29,170
数理計算上の差異の発生額	2,272	90,528
退職給付の支払額	292,624	389,315
その他	8,776	45,913
退職給付債務の期末残高	6,020,580	6,046,084

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
年金資産の期首残高	5,722,787	5,845,998
期待運用収益	108,359	112,377
数理計算上の差異の発生額	23,962	178,099
事業主からの拠出額	103,615	101,890
退職給付の支払額	112,726	182,077
その他	-	-
年金資産の期末残高	5,845,998	5,700,089

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,861,980	2,853,410
年金資産	3,760,494	3,665,357
	898,514	811,947
非積立型制度の退職給付債務	1,073,095	1,157,941
連結貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	174,581	345,994
退職給付に係る資産	962,148	811,947
退職給付に係る負債	1,136,730	1,157,941
連結貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	174,581	345,994

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	396,831	249,207
利息費用	35,778	29,170
期待運用収益	108,359	112,377
数理計算上の差異の費用処理額	47,442	73,982
その他	13,457	18,454
退職給付制度に係る退職給付費用	358,235	221,528

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
数理計算上の差異	73,677	194,645

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
未認識数理計算上の差異	140,010	54,634

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
債券	10.4%	10.6%
株式	18.7%	18.5%
現金及び預金	5.3%	5.1%
保険資産(一般勘定)	7.3%	7.5%
投資信託	35.7%	35.7%
共同運用資産	22.7%	22.5%
合計	100.0%	100.0%

(注) 年金資産合計には、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が、前連結会計年度35.7%、当連結会計年度35.7%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
割引率	0.19%	0.33%
長期期待運用収益率	2.60%	2.70%
予定昇給率	7.20%	7.20%

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
	千円	千円
繰延税金資産		
貸倒引当金	26,346	26,240
退職給付に係る負債	857,368	860,042
減損損失	407,849	328,987
賞与引当金	198,324	215,856
投資有価証券評価損	173,607	176,471
資産除去債務	98,743	100,231
税務上の繰越欠損金(注)	142,443	58,250
その他	660,770	633,091
繰延税金資産小計	2,565,454	2,399,172
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	140,874	58,250
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	451,254	443,478
評価性引当額小計	592,129	501,729
繰延税金資産合計	1,973,325	1,897,443
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,677,344	1,946,421
退職給付に係る資産	275,124	236,371
有形固定資産(資産除去債務)	38,989	34,506
海外連結子会社の留保利益	495,856	547,410
その他	526,784	568,759
繰延税金負債合計	3,014,101	3,333,468
繰延税金資産(負債)の純額	1,040,775	1,436,024

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2022年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	42,101	23,727	12,454	8,836	4,221	51,103	142,443千円
評価性引当額	42,101	23,727	12,454	8,836	4,221	49,534	140,874
繰延税金資産	-	-	-	-	-	1,568	(b)1,568

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金142,443千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産1,568千円を計上しております。当該繰延税金資産1,568千円は、主に連結子会社RIMTEC CORPORATIONにおける税務上の繰越欠損金の残高1,129千円(法定実効税率を乗じた額)の一部について認識したものであります。当該税務上の繰越欠損金について、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金(a)	25,158	17,532	5,760	5,553	2,553	1,691	58,250千円
評価性引当額	25,158	17,532	5,760	5,553	2,553	1,691	58,250
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	0.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.9	0.9
外国源泉税	0.3	0.4
評価性引当額の増減	0.7	1.1
海外連結子会社に係る税率差異	2.5	4.2
その他	1.3	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.5	25.7

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため注記を省略しております。

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)4 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は本社に基本的には市場別のビジネスユニットを置き、各ビジネスユニットは、国内及び海外の市場別戦略を統括及び立案し、グローバルな事業活動を展開しております。

したがって、当社グループの報告セグメントは、市場別を基礎として区分しており、「トランスポーテーション」「デイリーライフ&ヘルスケア」「エレクトロニクス」「ビルディング&コンストラクション」の4つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントの名称、略称、対象とする主要な市場

各報告セグメントの名称、略称、対象とする主要な市場は次のとおりであります。

- ・トランスポーテーション(Transportation)[TR]... 自動車、鉄道、船舶市場等
 - ・デイリーライフ&ヘルスケア(Daily Life & Healthcare)[DH]... 医療、生活資材、食品包材市場等
 - ・エレクトロニクス(Electronics)[EL]... エネルギー、情報通信、IT機器市場等
 - ・ビルディング&コンストラクション(Building & Construction)[BC]... 住宅、ビル、建築資材、土木市場等
- (注)[]は、報告セグメントの略称

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

セグメント利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	TR	DH	EL	BC	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	32,457,128	30,688,631	21,493,631	25,154,398	109,793,790	129,915	109,923,705	-	109,923,705
外部顧客への売上高	32,457,128	30,688,631	21,493,631	25,154,398	109,793,790	129,915	109,923,705	-	109,923,705
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	117	-	1,515	1,632	295,412	297,045	297,045	-
計	32,457,128	30,688,748	21,493,631	25,155,914	109,795,423	425,328	110,220,751	297,045	109,923,705
セグメント利益	2,737,512	1,856,535	439,229	1,131,128	6,164,406	23,776	6,188,183	103,859	6,292,043
セグメント資産	8,862,537	11,283,041	10,932,274	7,394,848	38,472,701	266,176	38,738,877	63,902,606	102,641,484
その他の項目									
減価償却費	1,332,080	583,736	833,104	756,956	3,505,876	215	3,506,091	-	3,506,091
のれんの 償却額	-	-	138,750	1,455	140,205	-	140,205	-	140,205
減損損失	-	-	319,144	-	319,144	-	319,144	-	319,144
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	-	271,653	19,250	-	290,904	-	290,904	2,209,079	2,499,984

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原材料の仕入・販売であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去103,859千円であります。

セグメント資産の調整額は、セグメント間消去 - 千円、全社資産64,750,958千円であり、全社資産の主なものは余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券等)及び管理部門に係る資産であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	TR	DH	EL	BC	計				
売上高									
顧客との契約から 生じる収益	38,090,253	33,492,275	24,626,546	27,186,503	123,395,578	102,412	123,497,991	-	123,497,991
外部顧客への売上高	38,090,253	33,492,275	24,626,546	27,186,503	123,395,578	102,412	123,497,991	-	123,497,991
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	1	1	2	384,290	384,293	384,293	-
計	38,090,253	33,492,275	24,626,547	27,186,504	123,395,581	486,703	123,882,284	384,293	123,497,991
セグメント利益	3,858,284	1,477,868	996,951	1,050,595	7,383,699	32,062	7,415,761	90,500	7,506,262
セグメント資産	10,940,632	11,176,030	11,529,461	7,480,331	41,126,455	328,956	41,455,411	70,547,345	112,002,757
その他の項目									
減価償却費	1,423,312	575,522	797,466	801,142	3,597,444	89	3,597,533	-	3,597,533
のれんの 償却額	-	-	-	1,455	1,455	-	1,455	-	1,455
減損損失	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	-	222,645	23,192	-	245,837	-	245,837	3,664,012	3,909,850

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原材料の仕入・販売であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去90,500千円であります。

セグメント資産の調整額は、セグメント間消去 - 千円、全社資産70,547,345千円であり、全社資産の主なものは余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券等)及び管理部門に係る資産であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	TR	DH	EL	BC	その他	合計
外部顧客への売上高	32,457,128	30,688,631	21,493,631	25,154,398	129,915	109,923,705

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	タイ	米国	中国	欧州	その他地域	合計
57,425,206	12,719,592	14,377,497	8,861,802	144,451	16,395,155	109,923,705

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	タイ	米国	中国	欧州	その他地域	合計
13,241,665	2,839,504	4,904,541	1,404,035	-	2,747,123	25,136,870

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	TR	DH	EL	BC	その他	合計
外部顧客への売上高	38,090,253	33,492,275	24,626,546	27,186,503	102,412	123,497,991

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	タイ	米国	中国	欧州	その他地域	合計
60,072,003	15,022,522	18,271,013	9,080,816	219,229	20,832,405	123,497,991

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	タイ	米国	中国	欧州	その他地域	合計
13,570,450	3,668,063	5,389,996	1,512,409	-	2,936,788	27,077,707

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	TR	DH	EL	BC	計				
当期末残高	-	-	-	7,275	7,275	-	7,275	-	7,275

(注) 1. のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. ELの報告セグメントにおいて、のれんの減損損失を231,250千円計上しております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	TR	DH	EL	BC	計				
当期末残高	-	-	-	5,820	5,820	-	5,820	-	5,820

(注) のれんの償却額に関しては、セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	914.83円	999.00円
1株当たり当期純利益	62.47円	72.11円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	3,941,418	4,557,523
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	3,941,418	4,557,523
普通株式の期中平均株式数(株)	63,090,216	63,204,889

(注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前連結会計年度1,023千株、当連結会計年度908千株であります。

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当連結会計年度末 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	65,448,500	72,165,232
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	7,686,429	8,969,215
(うち非支配株主持分(千円))	(7,686,429)	(8,969,215)
普通株式に係る純資産額(千円)	57,762,070	63,196,017
普通株式の自己株式数(株)	973,846	854,648
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	63,139,973	63,259,171

(注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めています。

1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は前連結会計年度973千株、当連結会計年度854千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	6,769,296	7,718,267	1.3	
一年以内返済予定の長期借入金	488,174	552,457	3.0	
一年以内返済予定のリース債務	14,444	16,456	-	
長期借入金 (一年以内返済予定のものを除く。)	2,566,512	2,260,070	2.0	2024年～2033年
リース債務 (一年以内返済予定のものを除く。)	20,774	30,639	-	2024年～2027年
その他有利子負債	-	-	-	
合計	9,859,201	10,577,890		

(注) 1 平均利率の算定方法

平均利率は、期中平均の残高を使用して算定しております。

- リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
- 長期借入金及びリース債務の連結決算日後5年内における返済予定額は、以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	610,506	322,563	-	729,850
リース債務	18,986	9,276	1,811	564

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	29,721,050	59,527,087	92,246,423	123,497,991
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額(千円)	2,461,993	4,044,223	6,056,514	7,962,615
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	1,511,086	2,377,774	3,560,432	4,557,523
1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	23.93	37.64	56.34	72.11

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	23.93	13.71	18.71	15.76

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,637,317	16,550,779
受取手形	1,268,812	815,979
売掛金	2 15,337,316	2 15,475,625
電子記録債権	2,798,726	4,546,235
商品及び製品	4,897,431	5,532,876
仕掛品	416,542	731,962
原材料及び貯蔵品	1,878,514	2,066,733
前払費用	197,915	205,559
短期貸付金	420	420
その他	2 883,002	2 758,906
貸倒引当金	83,500	82,500
流動資産合計	43,232,499	46,602,579
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,315,760	4,420,657
機械及び装置	2,833,376	3,022,074
車両運搬具	27,376	32,236
工具、器具及び備品	379,476	448,164
土地	4,727,287	4,727,287
リース資産	8,283	10,724
建設仮勘定	85,189	34,150
有形固定資産合計	12,376,749	12,695,294
無形固定資産		
ソフトウェア	711,986	734,092
その他	14,738	14,738
無形固定資産合計	726,725	748,831
投資その他の資産		
投資有価証券	7,866,436	8,747,066
関係会社株式	4,548,885	4,548,885
関係会社出資金	1,739,673	1,715,213
従業員に対する長期貸付金	1,170	750
前払年金費用	858,517	920,408
その他	348,011	514,932
投資その他の資産合計	15,362,695	16,447,255
固定資産合計	28,466,170	29,891,380
資産合計	71,698,669	76,493,960

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	18,953	2,168
買掛金	2 12,868,452	2 14,119,844
電子記録債務	521,101	467,511
営業外電子記録債務	162,555	170,678
短期借入金	3 2,950,000	3 2,950,000
リース債務	2,190	3,133
未払金	457,896	353,246
未払費用	2 951,831	2 875,747
未払法人税等	563,657	274,031
賞与引当金	630,820	685,567
役員賞与引当金	97,774	92,721
その他	69,801	121,868
流動負債合計	19,295,033	20,116,518
固定負債		
長期借入金	190,018	139,722
リース債務	6,093	8,340
繰延税金負債	548,204	918,773
役員株式給付引当金	171,386	200,788
退職給付引当金	339,104	310,782
資産除去債務	322,480	327,341
長期未払金	21,104	2,316
固定負債合計	1,598,392	1,908,066
負債合計	20,893,425	22,024,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,514,018	8,514,018
資本剰余金		
資本準備金	6,532,977	6,532,977
資本剰余金合計	6,532,977	6,532,977
利益剰余金		
利益準備金	1,107,369	1,107,369
その他利益剰余金		
別途積立金	12,000,000	12,000,000
繰越利益剰余金	18,868,141	21,818,180
利益剰余金合計	31,975,510	34,925,549
自己株式	466,193	406,095
株主資本合計	46,556,313	49,566,451
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,248,930	4,902,924
評価・換算差額等合計	4,248,930	4,902,924
純資産合計	50,805,243	54,469,375
負債純資産合計	71,698,669	76,493,960

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
売上高	2 43,578,893	2 57,080,217
売上原価	2 34,273,065	2 46,112,125
売上総利益	9,305,828	10,968,091
販売費及び一般管理費	1, 2 6,738,583	1, 2 7,788,175
営業利益	2,567,244	3,179,916
営業外収益		
受取利息及び配当金	2 1,371,580	2 1,915,458
為替差益	251,851	153,800
その他	2 165,728	2 143,175
営業外収益合計	1,789,160	2,212,434
営業外費用		
支払利息	18,284	17,399
貸与資産減価償却費	44,658	25,275
その他	33,367	16,948
営業外費用合計	96,309	59,623
経常利益	4,260,095	5,332,727
特別利益		
固定資産売却益	835	-
投資有価証券売却益	87,252	6,297
抱合せ株式消滅差益	566,260	-
特別利益合計	654,348	6,297
特別損失		
固定資産売却及び除却損	5,173	6,049
減損損失	319,144	-
関係会社清算損	36,936	-
特別損失合計	361,254	6,049
税引前当期純利益	4,553,188	5,332,975
法人税、住民税及び事業税	947,686	1,011,049
法人税等調整額	9,596	89,615
法人税等合計	938,090	1,100,664
当期純利益	3,615,098	4,232,310

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
				固定資産圧縮 積立金	別途積立金	
当期首残高	8,514,018	6,532,977	6,532,977	1,107,369	51,638	12,000,000
会計方針の変更による 累積的影響額						
会計方針の変更を反映 した当期首残高	8,514,018	6,532,977	6,532,977	1,107,369	51,638	12,000,000
当期変動額						
剰余金の配当						
固定資産圧縮積立金の 取崩					51,638	
当期純利益						
自己株式の取得						
自己株式の処分						
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	51,638	-
当期末残高	8,514,018	6,532,977	6,532,977	1,107,369	-	12,000,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰 余金	利益剰余金 合計					
当期首残高	16,495,663	29,654,672	517,035	44,184,633	3,955,969	3,955,969	48,140,602
会計方針の変更による 累積的影響額	11,984	11,984		11,984			11,984
会計方針の変更を反映 した当期首残高	16,483,678	29,642,687	517,035	44,172,648	3,955,969	3,955,969	48,128,617
当期変動額							
剰余金の配当	1,282,275	1,282,275		1,282,275			1,282,275
固定資産圧縮積立金の 取崩	51,638	-		-			-
当期純利益	3,615,098	3,615,098		3,615,098			3,615,098
自己株式の取得			49	49			49
自己株式の処分			50,890	50,890			50,890
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）					292,960	292,960	292,960
当期変動額合計	2,384,462	2,332,823	50,841	2,383,665	292,960	292,960	2,676,626
当期末残高	18,868,141	31,975,510	466,193	46,556,313	4,248,930	4,248,930	50,805,243

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
				固定資産圧縮 積立金	別途積立金	
当期首残高	8,514,018	6,532,977	6,532,977	1,107,369	-	12,000,000
会計方針の変更による累積的影響額						
会計方針の変更を反映した当期首残高	8,514,018	6,532,977	6,532,977	1,107,369	-	12,000,000
当期変動額						
剰余金の配当						
固定資産圧縮積立金の取崩						
当期純利益						
自己株式の取得						
自己株式の処分						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-
当期末残高	8,514,018	6,532,977	6,532,977	1,107,369	-	12,000,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰 余金	利益剰余金 合計					
	繰越利益 剰余金						
当期首残高	18,868,141	31,975,510	466,193	46,556,313	4,248,930	4,248,930	50,805,243
会計方針の変更による累積的影響額				-			-
会計方針の変更を反映した当期首残高	18,868,141	31,975,510	466,193	46,556,313	4,248,930	4,248,930	50,805,243
当期変動額							
剰余金の配当	1,282,272	1,282,272		1,282,272			1,282,272
固定資産圧縮積立金の取崩				-			-
当期純利益	4,232,310	4,232,310		4,232,310			4,232,310
自己株式の取得			94	94			94
自己株式の処分			60,193	60,193			60,193
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					653,994	653,994	653,994
当期変動額合計	2,950,038	2,950,038	60,098	3,010,137	653,994	653,994	3,664,131
当期末残高	21,818,180	34,925,549	406,095	49,566,451	4,902,924	4,902,924	54,469,375

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～47年

機械及び装置 8年

工具、器具及び備品 2年～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法(なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。)

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

取締役(監査等委員である取締役を除く。)及び執行役員に支給する賞与の支払に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に負担すべき金額を計上しております。

(4) 役員株式給付引当金

取締役及び執行役員への当社株式の給付等に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)に基づく定額法により費用処理しております。

各事業年度に発生した数理計算上の差異は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)に基づく定額法によりそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

製品又は商品の販売に係る収益は、主にコンパウンド製品、フィルム製品、食品包材製品の製造及び販売並びに商品の販売等であり、顧客との販売契約に基づいて製品又は商品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、製品又は商品を引き渡す一時点において、顧客が当該製品又は商品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。ただし、国内販売については、出荷時点で収益を認識しております。また、輸出版売については、顧客と合意した地点に製品が到着した時点で、履行義務が充足されたと判断し収益を認識しております。

なお、商品の販売のうち、代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 重要なヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理によっております。

(3) 従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引

連結財務諸表「注記事項（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1. 保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

前事業年度 (2022年3月31日)		当事業年度 (2023年3月31日)	
RIKEN VIETNAM CO.,LTD.	1,943,258千円	RIKEN VIETNAM CO.,LTD.	1,685,942千円
RIKEN ELASTOMERS(THAILAND)CO.,LTD.	496,800	RIKEN ELASTOMERS(THAILAND)CO.,LTD.	488,750
RIKEN ELASTOMERS CORPORATION	820,939	RIKEN ELASTOMERS CORPORATION	469,114
RIKEN AMERICAS CORPORATION	399,295	RIKEN AMERICAS CORPORATION	283,460
上海理研塑料有限公司	170,728	上海理研塑料有限公司	183,685
RIKEN U.S.A. CORPORATION	293,784	RIKEN U.S.A. CORPORATION	113,509
理研食品包装(江蘇)有限公司	51,013	理研食品包装(江蘇)有限公司	31,072
RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION	60,720	RIKEN TECHNOS INTERNATIONAL KOREA CORPORATION	30,870
計	4,236,539	計	3,286,404

2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
短期金銭債権	3,032,986千円	2,858,142千円
短期金銭債務	57,038	186,514

3. 当座貸越契約及び借入未実行残高

当社は、運転資金の機動的な調達を行うため取引銀行との間に当座貸越契約を締結しております。当事業年度末の借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
当座貸越極度額の総額	6,600,000千円	6,500,000千円
借入実行残高	2,750,000	2,750,000
差引額	3,850,000	3,750,000

(損益計算書関係)

1. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度59%、当事業年度63%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度41%、当事業年度37%であります。販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。なお、研究開発費の内訳は、主として労務費、減価償却費、研究材料費であります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
支払運賃	1,516,495千円	2,219,423千円
支払手数料	960,241	937,341
旅費交通費	88,104	147,724
給料及び賞与	1,121,860	1,224,892
賞与引当金繰入額	186,571	230,743
退職給付費用	92,853	56,568
役員賞与引当金繰入額	90,296	84,843
地代家賃	365,911	377,325
減価償却費	176,308	257,960
研究開発費	964,668	1,067,078
貸倒引当金繰入額	1,225	1,000

2. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	6,065,464千円	6,650,637千円
仕入高	495,686	1,020,390
販売費及び一般管理費	305,703	212,896
営業取引以外の取引による取引高	1,197,891	1,719,275

(有価証券関係)

前事業年度(2022年3月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額 4,548,885千円)は、市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりませ
ん。

当事業年度(2023年3月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額 4,548,885千円)は、市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりませ
ん。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
	千円	千円
繰延税金資産		
貸倒引当金	25,567	25,261
退職給付引当金	716,233	707,561
減損損失	389,720	324,454
資産除去債務	98,743	100,231
賞与引当金	193,157	209,920
未払事業税	37,665	37,500
投資有価証券評価損	173,607	176,471
関係会社出資金評価損	716,888	705,578
関係会社株式評価損	56,137	56,137
その他有価証券評価差額金	16,076	6,302
その他	222,895	209,784
繰延税金資産小計	2,646,693	2,559,206
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	-	-
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	1,206,151	1,200,649
評価性引当額小計	1,206,151	1,200,649
繰延税金資産合計	1,440,541	1,358,556
繰延税金負債		
有形固定資産(資産除去債務)	38,989	34,506
前払年金費用	262,878	281,828
その他有価証券評価差額金	1,673,892	1,945,072
その他	12,985	15,922
繰延税金負債合計	1,988,746	2,277,329
繰延税金資産(負債)の純額	548,204	918,773

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	1.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.9	1.8
外国子会社から受ける剰余金の配当等の益金不算入	6.0	7.8
試験研究費特別税額控除	2.4	2.5
住民税均等割	0.5	0.4
評価性引当額の増減	0.1	0.1
その他	1.5	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	20.6	20.6

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額 (千円)
有形固定資産						
建物及び構築物	4,315,760	466,436	1,523	360,015	4,420,657	10,610,037
機械及び装置	2,833,376	1,145,526	3,212	953,615	3,022,074	29,836,861
車両運搬具	27,376	27,930	0	23,069	32,236	219,767
工具、器具及び備品	379,476	299,253	422	230,142	448,164	4,186,650
土地	4,727,287	-	-	-	4,727,287	-
リース資産	8,283	6,162	-	3,721	10,724	24,251
建設仮勘定	85,189	1,894,268	1,945,307	-	34,150	-
有形固定資産計	12,376,749	3,839,576	1,950,467	1,570,564	12,695,294	44,877,568
無形固定資産						
ソフトウェア	711,986	216,076	-	193,971	734,092	-
その他	14,738	-	-	-	14,738	-
無形固定資産計	726,725	216,076	-	193,971	748,831	-

(注) 1 当期増加額の重要なものは次のとおりであります。

建物及び構築物	埼玉工場	工場建屋関連設備	160,461千円
建物及び構築物	研究開発センター	研究開発センター関連設備	147,882千円
建物及び構築物	三重工場	工場建屋関連設備	140,187千円
機械及び装置	三重工場	コンパウンド製造設備	290,428千円
機械及び装置	研究開発センター	開発設備等	261,101千円
機械及び装置	埼玉工場	フィルム製造設備	167,558千円
機械及び装置	名古屋工場	食品包材製造設備	158,860千円
工具、器具及び備品	埼玉工場	開発センター設備関連	66,818千円
工具、器具及び備品	研究開発センター	分析機器等	55,817千円
工具、器具及び備品	埼玉工場	フィルム製造設備関連	44,881千円
ソフトウェア	本社	新基幹システム関連等	214,457千円

2 当期減少額の重要なものは次のとおりであります。

機械及び装置	三重工場	フィルム製造設備	2,030千円
--------	------	----------	---------

3 建設仮勘定の当期増加は、上記機械及び装置等の取得に伴うものであり、減少は有形固定資産本勘定への振替によるものであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	83,500	-	1,000	82,500
賞与引当金	630,820	685,567	630,820	685,567
役員賞与引当金	97,774	92,721	97,774	92,721
役員株式給付引当金	171,386	38,468	9,066	200,788

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 当社の公告掲載URLは次の通り。https://www.rikentechos.co.jp
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書 | 事業年度 自 2021年4月1日
(第93期) 至 2022年3月31日 | 2022年6月17日
関東財務局長に提出 |
| (2) 有価証券報告書の訂正報告書及びその確認書 | 第89期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
第90期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
第91期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
第92期(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。
第93期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。 | 2023年4月24日
関東財務局長に提出
2023年4月24日
関東財務局長に提出
2023年4月24日
関東財務局長に提出
2023年4月24日
関東財務局長に提出
2023年4月24日
関東財務局長に提出 |
| (3) 内部統制報告書及びその添付書類 | | 2022年6月17日
関東財務局長に提出 |
| (4) 四半期報告書及び確認書 | (第94期第1四半期) 自 2022年4月1日 至 2022年6月30日
(第94期第2四半期) 自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
(第94期第3四半期) 自 2022年10月1日 至 2022年12月31日 | 2022年8月5日
関東財務局長に提出
2022年11月4日
関東財務局長に提出
2023年2月3日
関東財務局長に提出 |
| (5) 臨時報告書 | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。
金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第7号の3(吸収合併)に基づく臨時報告書であります。 | 2022年6月20日
関東財務局長に提出
2022年12月26日
関東財務局長に提出 |
| (6) 臨時報告書の訂正報告書 | 2022年12月26日提出の臨時報告書(吸収合併)に係る訂正報告書であります。 | 2023年5月17日
関東財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年 6月16日

リケンテクノス株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井上 秀之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉本 義浩

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているリケンテクノス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リケンテクノス株式会社及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

リケンテクノス株式会社の製品売上高に係る収益認識	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>リケンテクノス株式会社は、当連結会計年度の連結損益計算書において売上高123,497,991千円を計上しており、当事業年度の損益計算書において売上高57,080,217千円を計上している。</p> <p>リケンテクノス株式会社の製品売上高は、主に基幹システムにマスター登録された販売単価に、受注時に入力した販売数量を乗じて算定され計上される。製品の一取引当たりの取引価額は比較的少額であるが、多品種の製品を販売しているため、販売単価マスター登録・改訂や受注入力回数は膨大なものとなる。</p> <p>また、リケンテクノス株式会社の製品は、原油から精製されるナフサ由来のエチレン、プロピレン等の石化基礎製品から作られる誘導品を主原材料としているため、その原材料単価及び製品単価は原油価格の変動の影響を大きく受け、原油価格の変動が大きいと単価の改訂頻度も高くなる。</p> <p>製品売上高の取引フローでは内部統制が構築されているが、手作業による統制も含まれるため、販売単価マスター登録・改訂の回数や取引数が多くなるにつれて販売単価マスターの入力誤りや変更漏れ、販売数量の入力誤りが発生し、適切な販売単価や販売数量に基づかない誤った売上高が計上される可能性がある。</p> <p>以上から、当監査法人は、リケンテクノス株式会社の製品売上高に係る収益認識を監査上の主要な検討事項と判断した。</p>	<p>当監査法人は、リケンテクノス株式会社の製品売上高に係る収益認識を検討するため、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売上高に関連する受注、出荷、単価マスター登録・改訂、請求、売上計上等の各プロセスについて、販売単価の入力や販売数量の入力の正確性に関する業務処理統制を含め、内部統制の整備・運用状況の有効性を評価した。 ・売上高に関連する基幹システムについて、ユーザーアクセス管理、システム変更管理及びシステム運用管理等のIT全般統制の有効性を評価した。 ・売上高の実績をセグメント別及び製品種類別に把握し、売上高の著しい変動等の異常性の有無を検討した。 ・月次売上高の過年度実績と当年度実績の比較や販売単価の取引先別での増減分析を実施し、著しい変動等の異常性の有無を検討した。 ・年間の売上取引を対象にサンプルを抽出し、抽出したサンプルについて、注文書、物品受領書等の取引証憑と突合した。 ・主要取引先に対して、売掛金の残高確認手続を実施した。 ・売掛金の滞留残高について、会社が実施した滞留調査結果を閲覧し、多額の滞留残高の有無、滞留理由を検討した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、リケンテクノス株式会社の2023年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、リケンテクノス株式会社が2023年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年 6月16日

リケンテクノス株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井上 秀之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉本 義浩

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているリケンテクノス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第94期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、リケンテクノス株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

リケンテクノス株式会社の製品売上高に係る収益認識

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「リケンテクノス株式会社の製品売上高に係る収益認識」と同一内容であるため、記載を省略している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1．上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。